

(仮称) 小山市都市づくりのマスタープラン  
第1回 市民懇談会

令和4年6月

# 目 次

Chapter 1

● まちづくりの理念

Chapter 2

● 小山市の現況

Chapter 3

● 上位計画及び関連計画

Chapter 4

● 市民アンケート調査

chapter 5

● 風土性調査

Chapter 6

● 今後の方向性(案)

# Chapter 1

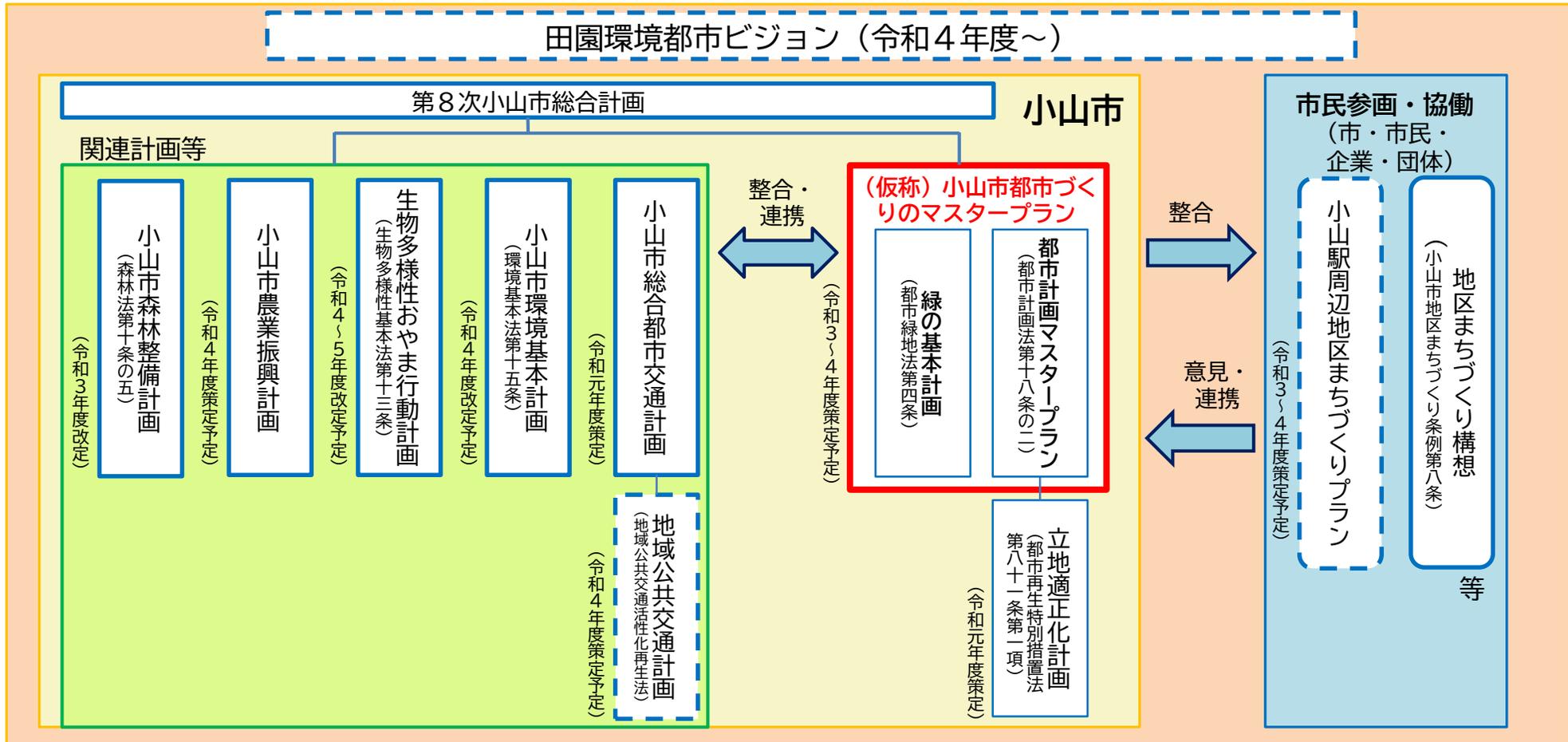
## ● まちづくりの理念

## ■ 「田園環境都市 小山」とは

- 本市の最上位計画である第8次小山市総合計画において、本市のまちづくりの中心的な考え方である『田園環境都市 小山』が示されています。
- 田園環境都市とは、「交通利便性の高さに加え産業のバランスがとれた都市と、その周辺に広がる農地や平地林の自然豊かな田園環境が調和した本市のすがた」と定義されています。
- 同計画の基本理念は、「市民との対話と連携・協働による『田園環境都市 小山』を未来につなぐ持続可能なまちづくり」となっており、「市民との協働」や「自然環境への配慮」が求められています。
- 「（仮称）小山市都市づくりのマスタープラン」においても、最上位計画で示された『田園環境都市 小山』をまちづくりの理念として位置づけることにしました。

## ■ 持続可能な「田園環境都市 小山」のまちづくりを目指して

- 本市では、持続可能な「田園環境都市 小山」のまちづくり実現に向け、第8次小山市総合計画（2021年3月）をはじめとした各種計画の策定／改定に取り組んでいます。
- また小山駅周辺においては、市と市民・企業・団体が協働で、まちの将来像を示す「まちづくりプラン」の検討を行っています。



## ■ 「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」とは

### ● 都市計画マスタープラン

栃木県が定める都市計画区域マスタープラン及び本市の議会の議決を経て定められた本市の建設に関する基本構想に即し、市町村が都市計画の基本を定めるものです。（都市計画法第18条の2）

住民に最も近い立場にある市町村が、その創意工夫のもとに住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、あるべき「まち」の姿を定めるものです。

### ● 緑の基本計画

市町村が、緑地の保全や緑化の推進に関して、その将来像、目標、施策などを定める基本計画です。これにより、緑地の保全及び緑化の推進を総合的、計画的に実施することができます。（都市緑地法第4条）

## ■ 「（仮称）小山市都市づくりのマスタープラン」とは

- 「第8次小山市総合計画」に示す「田園環境都市 小山」の実現に向け、都市と緑を一体的に捉え、将来都市像を描き、共通した施策を展開していく必要があるため、ともに改定時期を迎えている「都市計画マスタープラン」と「緑の基本計画」を一本化し、「（仮称）小山市都市づくりのマスタープラン」として策定します。
- 人間生活において自然環境の重要性は高く、都市における緑地計画、公園計画は都市計画の大変重要な要素のひとつとなっています。しかし従来の都市計画マスタープランは、道路等の都市施設の配置や整備に力点が置かれ、緑に関しては、別途緑の基本計画等で詳細に計画するという考え方が主流でしたが、近年のSDGs（持続可能な開発目標）といった時代潮流を踏まえ、都市と緑を切り離してまちづくりを考えていくよりも、一体的に捉えることが持続可能性や自然環境への配慮のために合理的だと考えられるようになってきました。
- 「（仮称）小山市都市づくりのマスタープラン」では、従来の都市計画マスタープランの骨格を有しながらも、緑をより一層掘り下げて検討することで、良好な都市環境の形成に資する都市づくりのマスタープランを作成します。

## ■ (仮称) 小山市都市づくりのマスタープラン改定のポイント

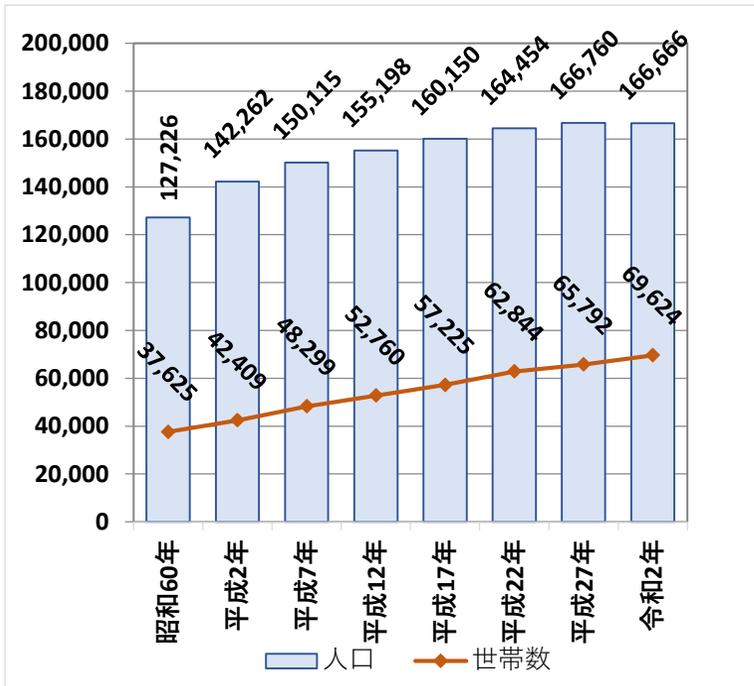
- 「交通利便性の高さに加え産業のバランスがとれた都市と、その周辺に広がる農地や平地林の自然豊かな田園環境が調和した」本市の現況に、気候危機への対応やSDGsの実践として低炭素化、流域治水、グリーンインフラ等に関する施策を落とし込むためには、市域の環境がこれまでにどのようにかたちづけられ、どのような成り立ちを持つのかを知ることが求められます。
- このことから、都市のこれからを息長く「持続可能」に構想して都市づくりのマスタープランを策定することが求められていると考えます。そして、市域における自然の歴史と人間の歴史およびこれら相互の関係、つまりは人間を含む生態系の変遷の歴史を長期的かつ総合的に調べる方法として、本市の風土の成り立ちに着目した風土性調査を導入することとしました。

# Chapter 2

## ● 小山市の現況

## ■人口

- 小山市も人口減少のフェーズに入りつつあるものの、周辺市町と比較するとごくわずかな人口減少で留まっています。
- 小山市の総人口の将来展望（独自推計による長期的な見通し）では、2060年に総人口 約15.1万人の維持及び人口構造の若返りを目指しています。



出典：第2次 小山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年）

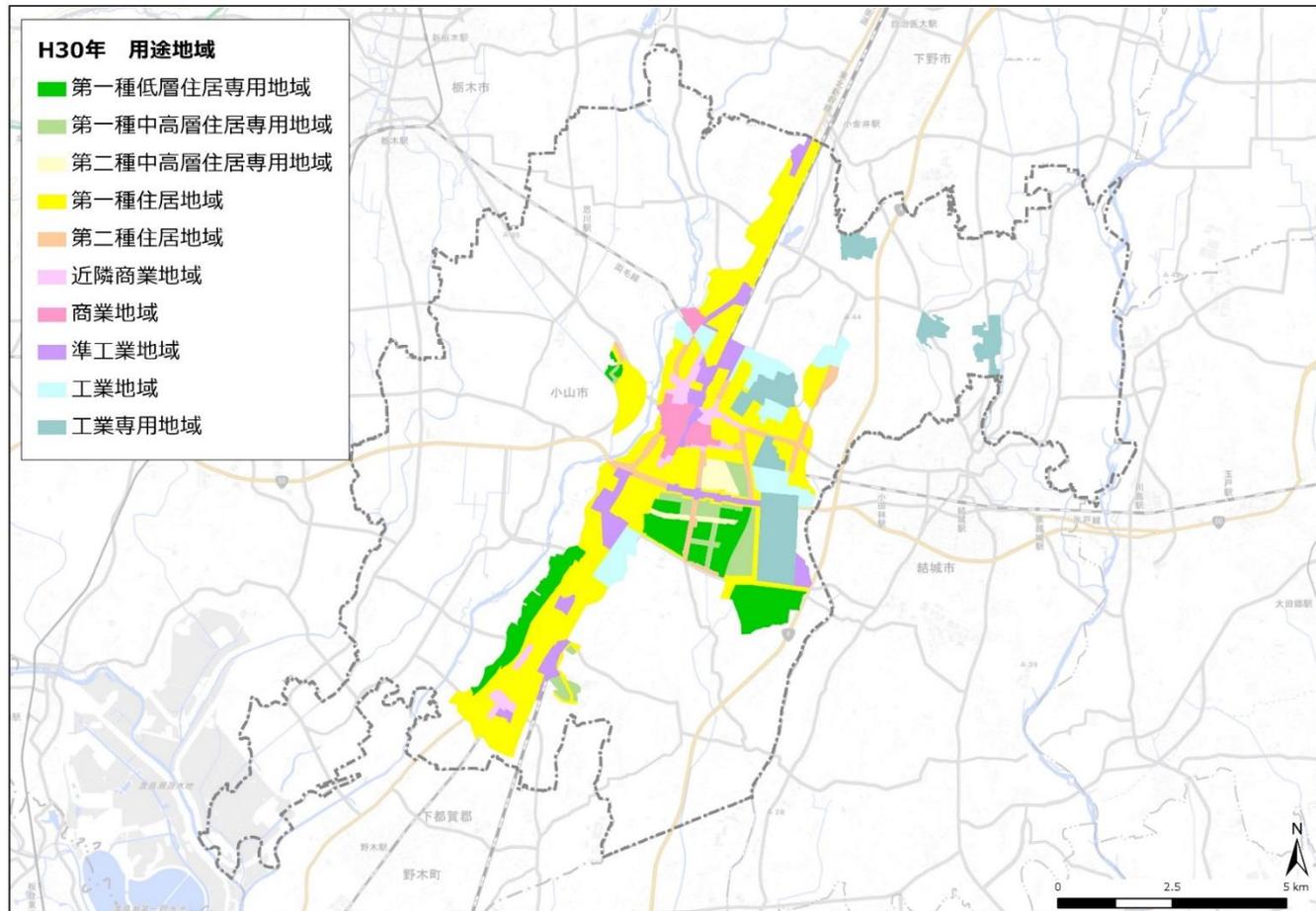
・なお、図にはありませんが、2020年に初めて人口減少に転じたものの、将来人口推計減少割合は同規模都市と比較して少ない見通しとなっています。

（2045年/2015年：91.5%、同規模都市80%）

・また、外国籍居住割合が高いのも小山市の特徴と言えます。（4.2%、同規模都市1.7%）

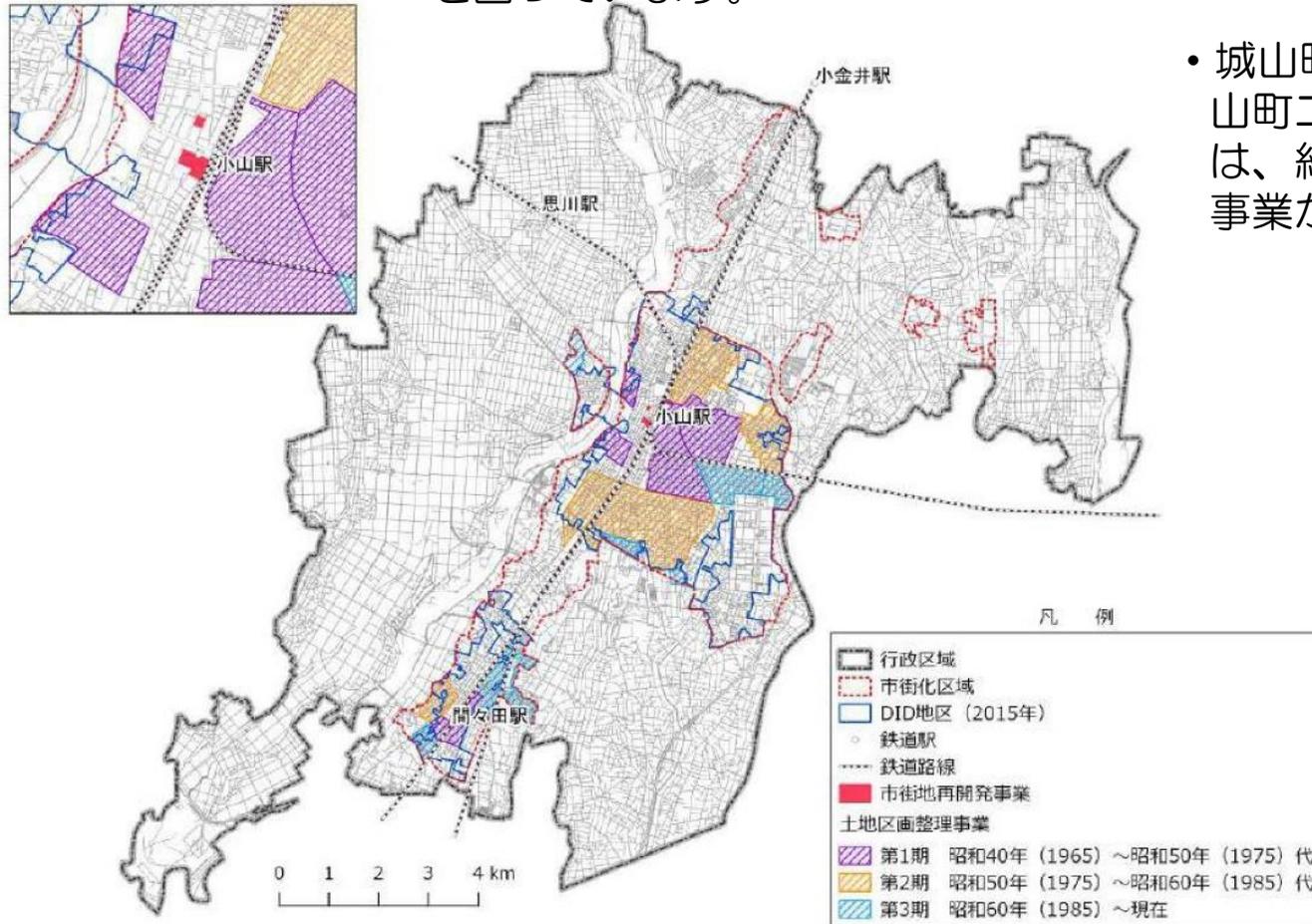
## ■ 用途地域

- ・小山市全域が都市計画区域であり、市街化区域19%、市街化調整区域81%となっています。
- ・用途地域としては、住居系66%、商業系6%、工業系28%となっています。
- ・思川西部等、面的整備を行ったエリアは市街化編入しているものの、市街化区域はあまり拡大しておりません。（2021年/1970年：約10%増）



## ■市街地開発事業の実施状況

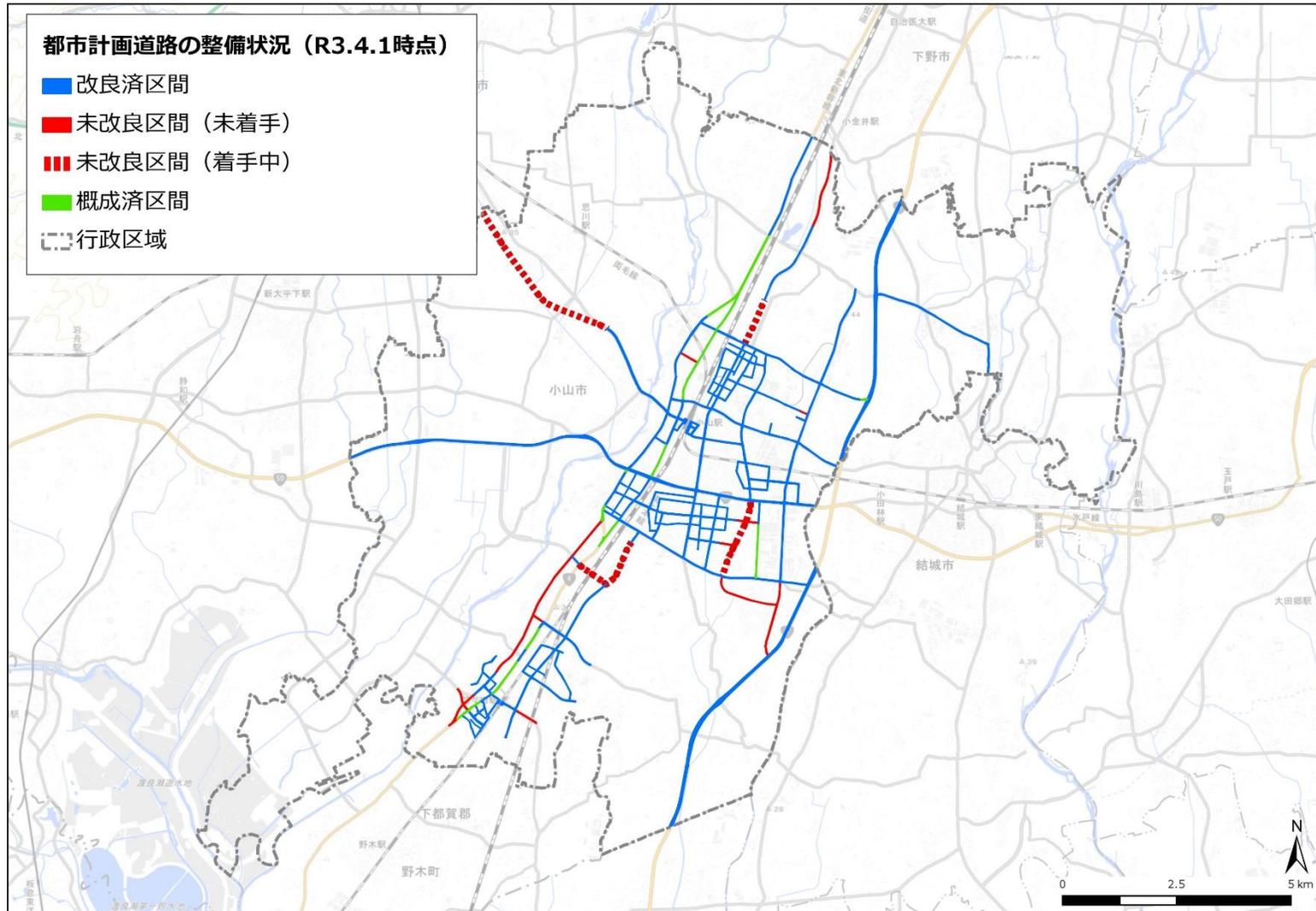
- 城南地区など全21地区、約1,244haの土地区画整理事業を実施してきました。
- 土地区画整理事業は昭和40年（1965年）代から進められ、当初は市施行が主流だった一方、近年は組合施行で行われています。
- 小山駅周辺においては高度利用地区を設定し、土地/建物の高度利用を図っています。



- 城山町三丁目第一地区や城山町二丁目第一地区等では、組合施行による再開発事業が行われました。

## ■ 都市計画道路

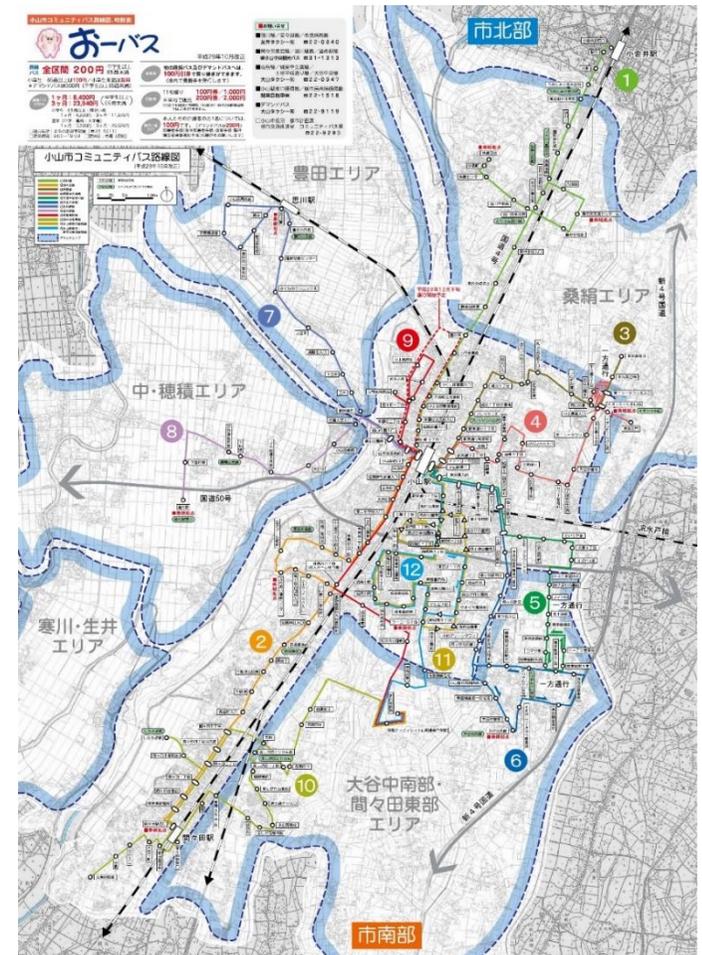
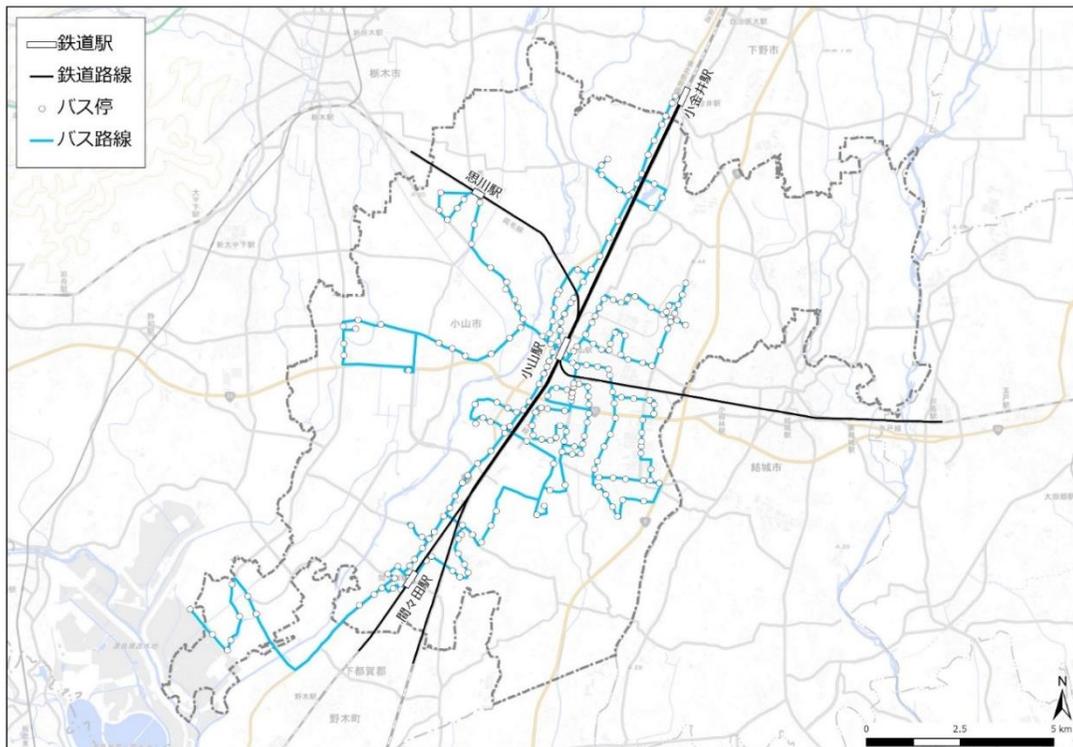
- ・ 計画延長153,305mに対し、116,355mが整備済み（整備率75.9%）
- ・ 長期未着手の都市計画道路が存在しています。



## ■ 公共交通

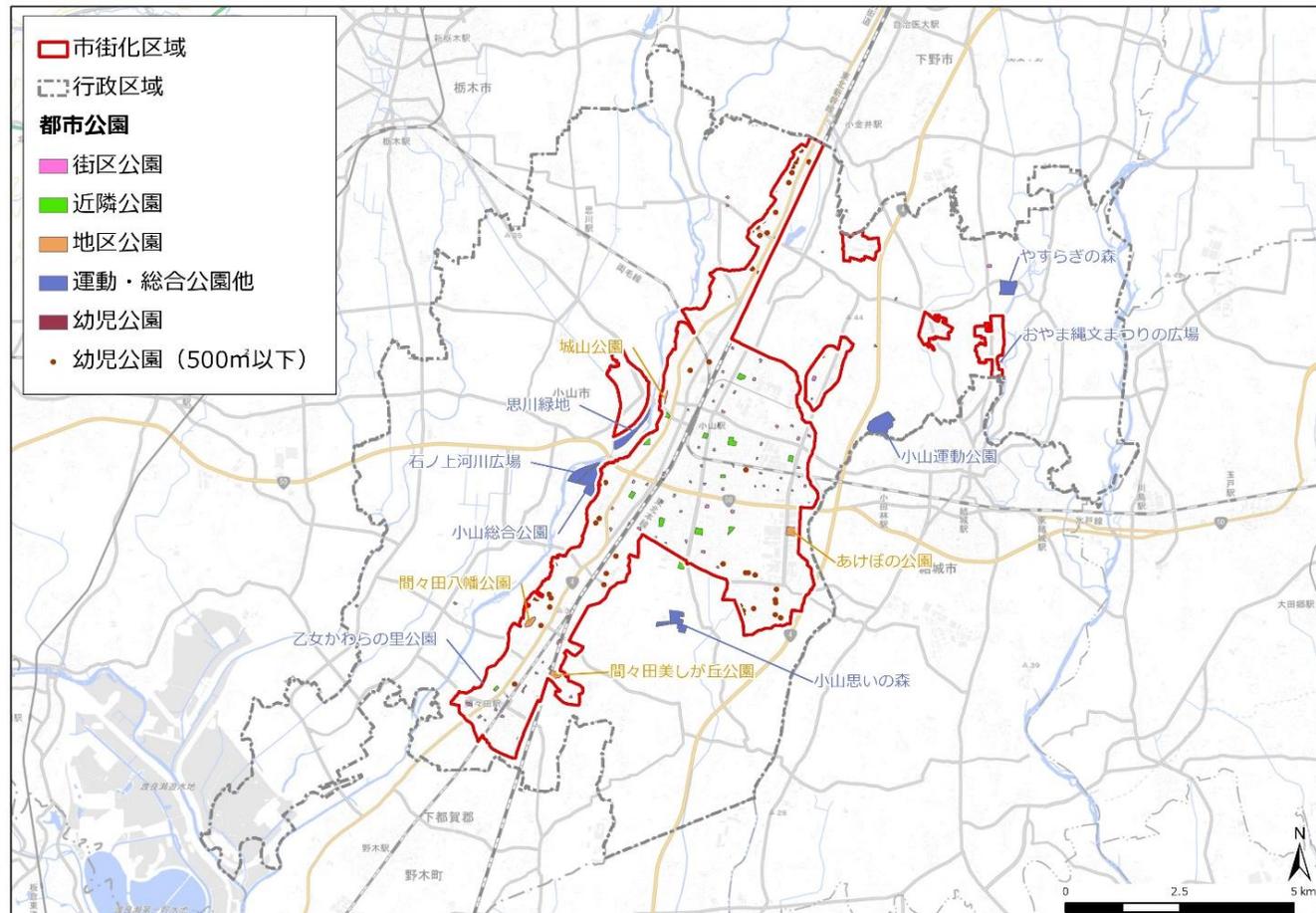
- 小山駅で JR 宇都宮線、両毛線、水戸線が交差する交通結節点であり、鉄道の利便性が高い（交通分担率13.9%、同規模都市※7.4%）
- JR 東北新幹線の停車駅で、東京まで約 40 分と首都圏への交通アクセスに優れる
- バスの利用率が低い（交通分担率0.8%、同規模都市2.8%）
- 公共交通利便性の高いエリア（駅 1km、バス停 200m以内）にある住宅の割合が低い（28.8%、同規模都市53.1%）
- 日常生活サービスの徒歩圏充足率が低い（1.9%、同規模都市31.4%）

※10～40万人の全国都市



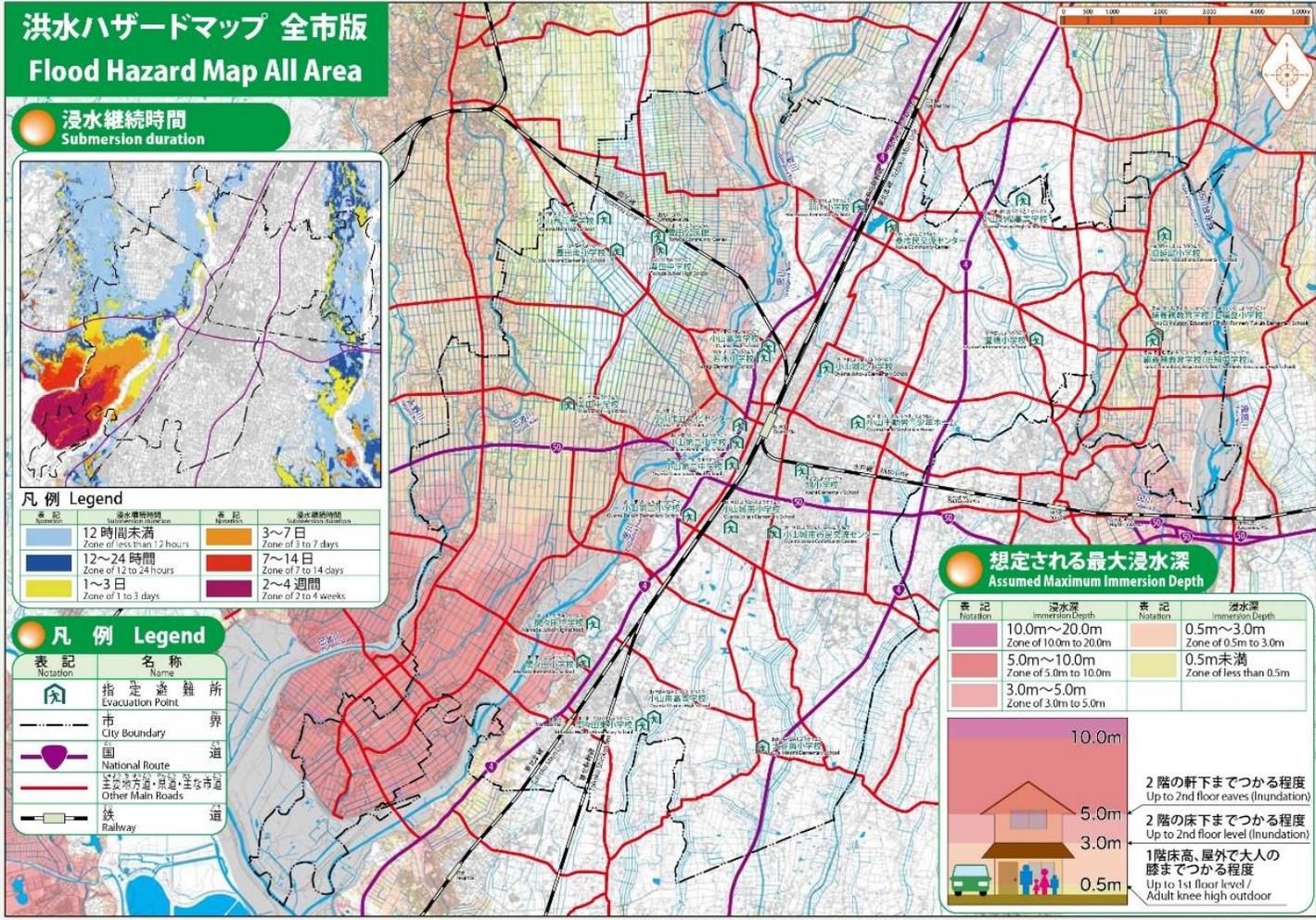
## ■ 都市公園

- 都市公園は計167箇所、約148.9haが整備・供用されています。
- 内訳としては、街区公園144箇所、近隣公園11箇所、地区公園が4箇所、総合公園2箇所、運動公園3箇所、墓園1箇所、その他公園2箇所となっています。
- 市街化区域における、都市公園から800m以内の人口カバー率が高くなっておりま  
す（96.9%、同規模都市92.4%）が、一方で市民一人当たりの公園面積が少ない  
という課題があります。（8.90㎡、全国平均10.10㎡）



■防災

- 土砂災害警戒区域が8箇所、土砂災害特別警戒区域が5箇所、急傾斜地崩壊危険区域が7箇所指定されています。
- 浸水想定区域に市街地はほとんど含まれておりませんが、大行寺地区や間々田地区は、市街地の一部に浸水想定区域が指定されています。

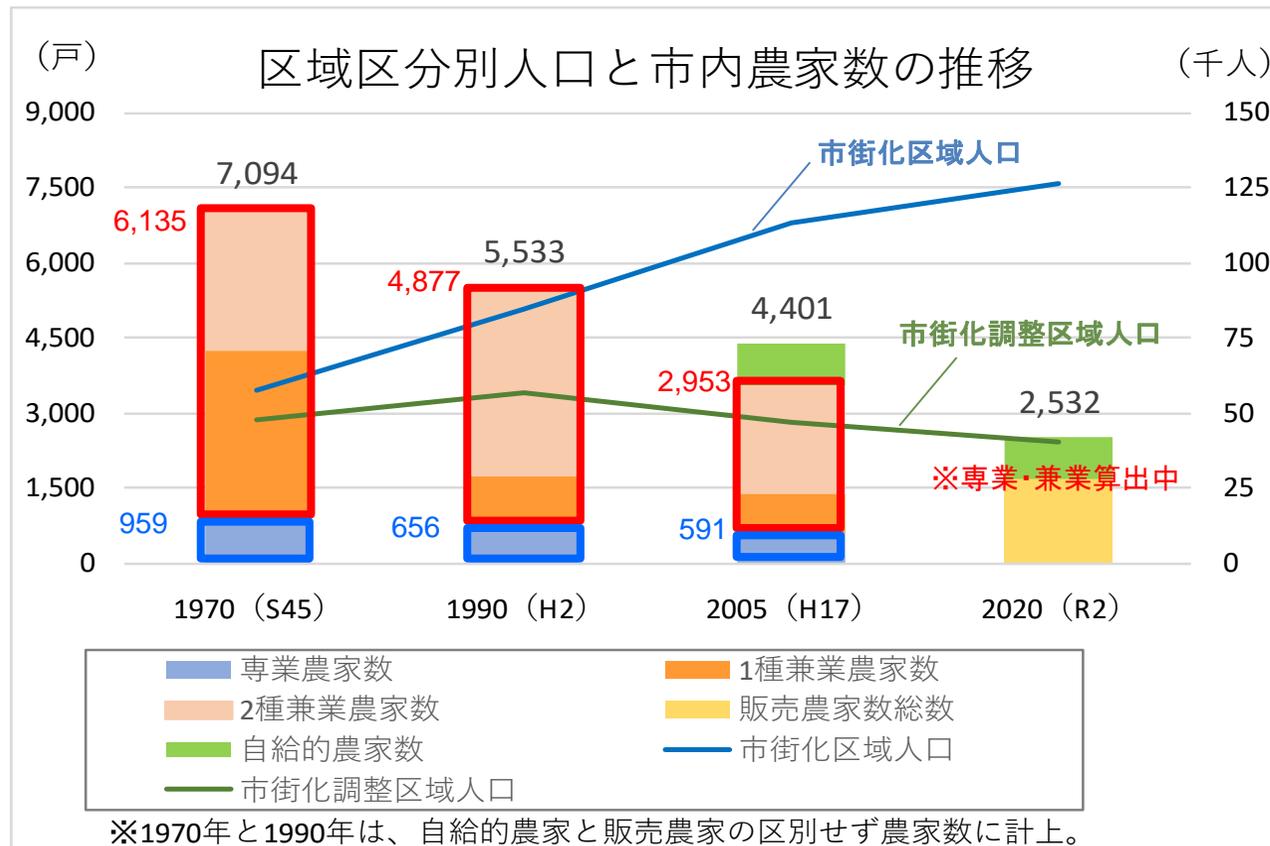


(2018年8月発行)

この地図の作成に当たっては、国土情報院長の承認を得て、同時発行の「基礎地図情報」を引用した。（承認番号：平成30補地 第206号）

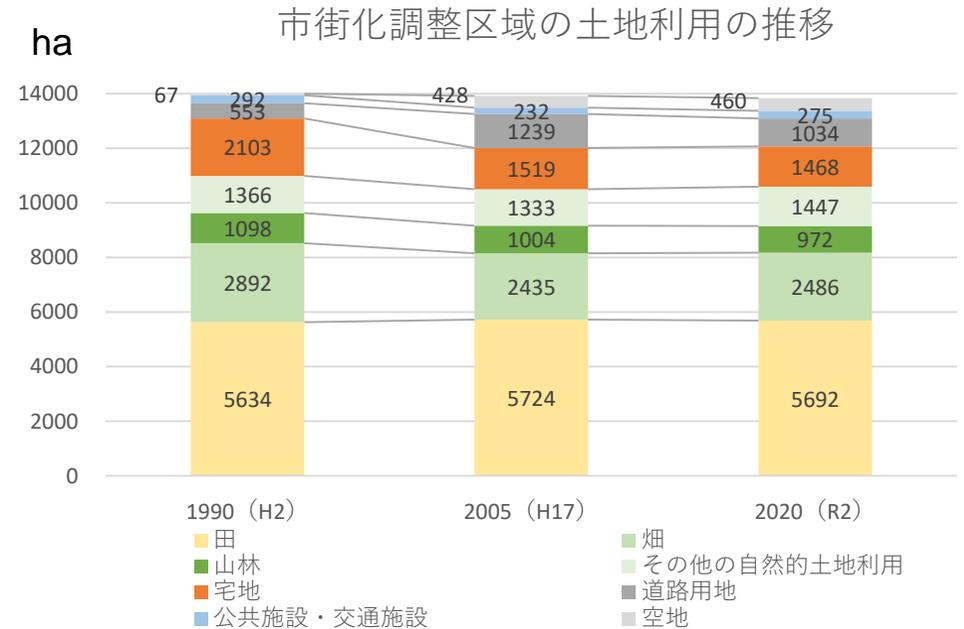
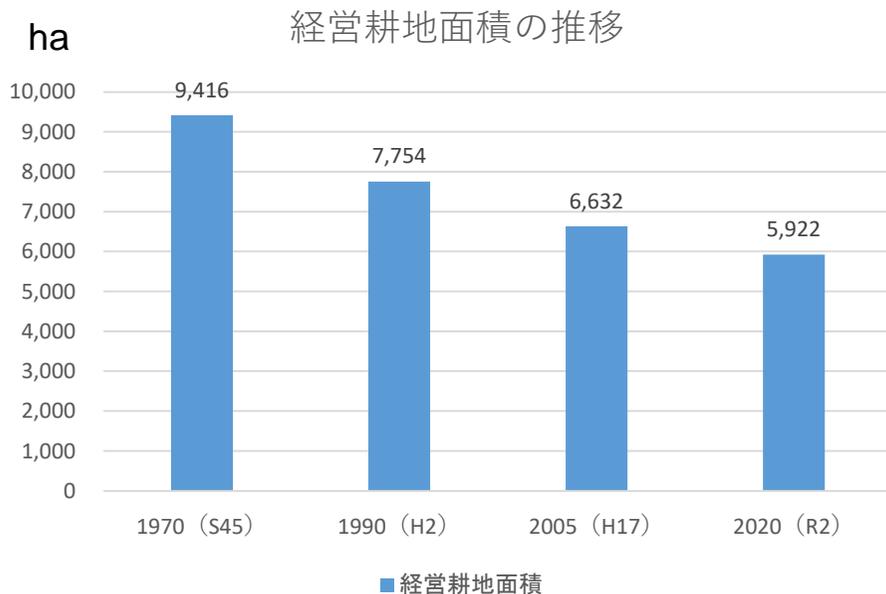
## ■ 区域区別人口と市内農家数

- 市内における農家数は1970年以降減少しており、専業農家は微減、兼業農家は大幅減となっています。
- 市街化区域の人口は1970年以降増加しており、市街化調整区域の人口については1990年以降は減少しています。



## ■ 農地および市街化調整区域の土地利用状況

- 農地（経営耕地面積）は、1970年以降減少を続けています。
- 一方で、農業、農村の有する多面的機能の維持、発揮を図る地域の共同活動（非農家も参加）が盛んで、カバー率※が高い状況です。（市内84.3% 県内40.0%）
- 市街化調整区域内の宅地面積は、1990年以降緩やかに減少しています。
- 一方で、市街化調整区域内の道路面積は増加しています。
- また、市街化調整区域内における開発許可による宅地開発の合計（2006年から2021年まで）面積は約68.3haで、市街化調整区域宅地面積の約5%を占めます。



（※カバー率：全体の農振農用地面積に対し、多面的機能の維持、発揮を図る活動の対象となる農用地面積の割合）

# Chapter 3



## 上位計画及び関連計画

## ■第8次小山市総合計画

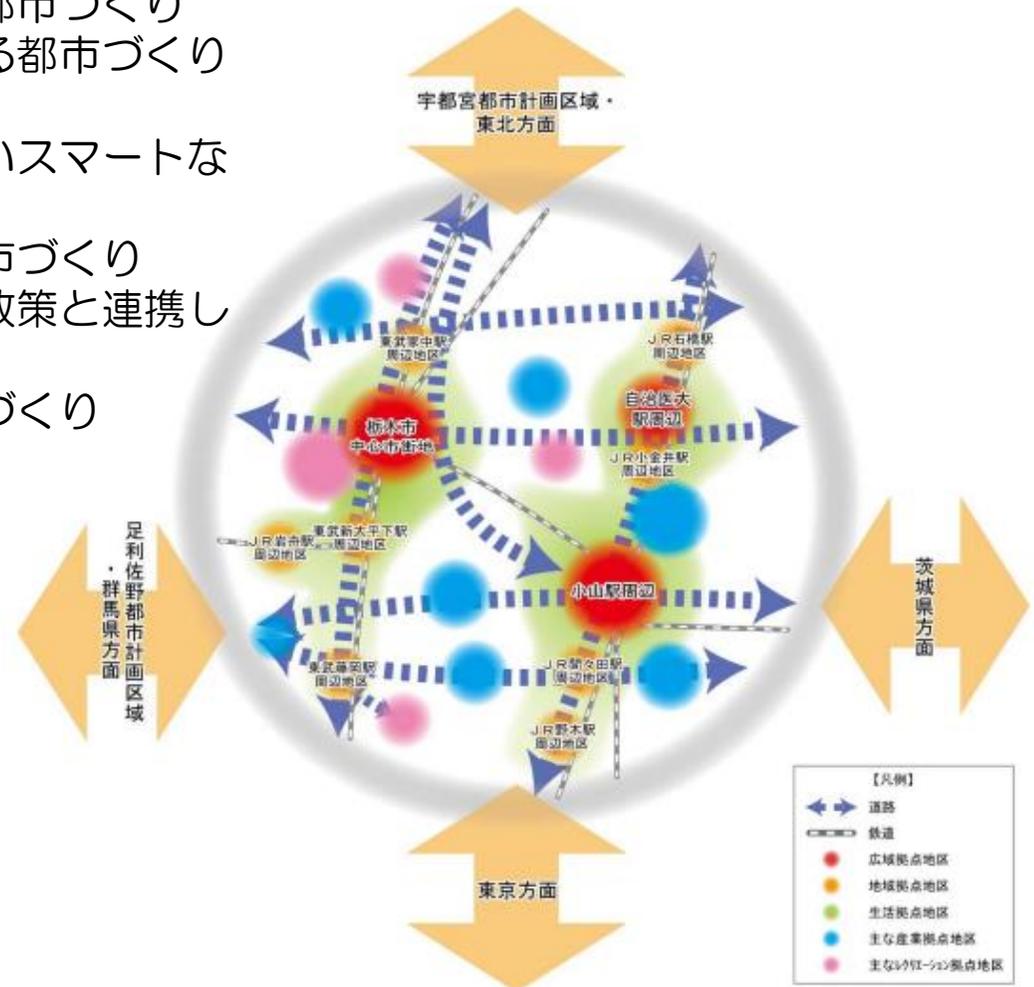
- 2021年3月策定
- 将来都市像：「ひと」「まち」「暮らし」がいきいき 未来へつながる おやま
- まちづくりの基本理念：市民と対話と連携・協働による「田園環境都市 小山」を未来につなぐ  
持続可能なまちづくり  
市民とともに進める 支え合い認め合う ひと・行政づくり  
魅力ある地域資源を生かした 住み続けたい まちづくり  
豊かな自然との共生と 安全で安心できる 暮らしづくり
- 基本構想期間：2021年度～2025年度 [5カ年]
- 現計画の目標値に対する実績値

	現状値	目標値
総人口	167,730[人]	167,000[人]
「市民フォーラム」の開催	546[人]	800[人]
高収益農業生産拡大事業	129[億円]	150[億円]
新規就農者及び担い手の育成・確保	461[人]	500[人]
多面的機能支払交付金事業	84.3%	90.0%
地区まちづくり推進事業	38[団体]	41[団体]
地区計画策定事業	1,648[件]	2,150[件]

## ■ 小山栃木都市計画区域マスタープラン

(小山栃木都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針)

- 2021年3月に栃木県が策定
- 目標：①誰もが暮らしやすくコンパクトな都市づくり  
 ②誰もが安全でスムーズに移動できる都市づくり  
 ③持続可能で効率的な都市づくり  
 ④新技術を活用した環境にもやさしいスマートな都市づくり  
 ⑤とちぎの魅力や強みを活かした都市づくり  
 ⑥医療や福祉、産業、環境など各種政策と連携した都市政策の展開  
 ⑦多様な主体と協働・連携した都市づくり  
 ⑧都市のマネジメント
- 目標年度：2025年、2035年

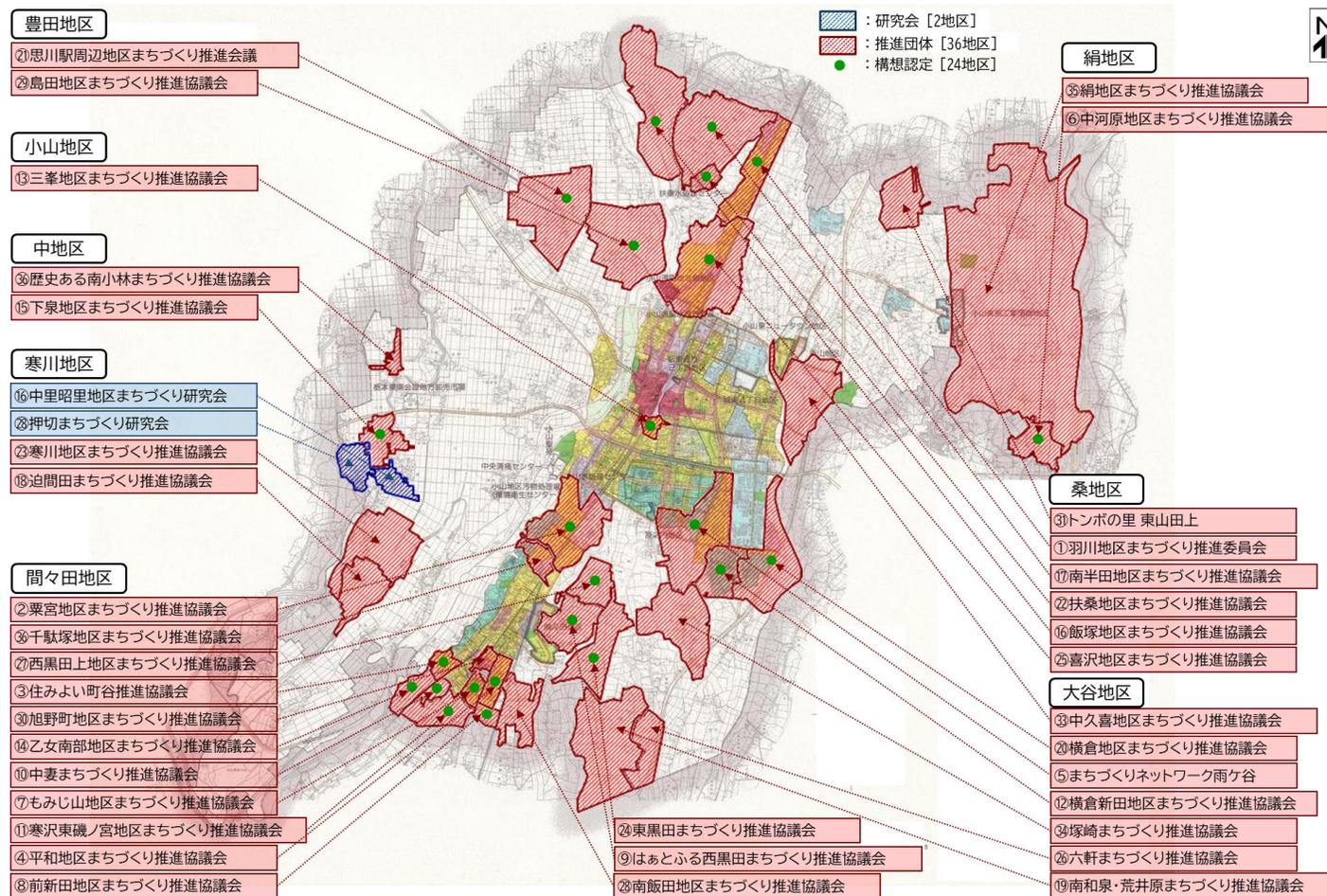




# ■ 地区まちづくり構想

- ・ 小山市地区まちづくり条例を2005年4月施行
- ・ 市民と行政との協働のまちづくりを推進
- ・ 地域住民が主体的に地元まちづくり団体を立ち上げ、自分のまちの将来像（まちづくり構想）を考え、その構想の実現に向けて市民と行政が協働で取り組む
- ・ 活動実績

「まちづくり研究会」  
2団体  
「まちづくり推進団体」  
36団体  
「まちづくり構想」認定  
24地区





## ■ 現行計画：緑の基本計画

- 2006年3月策定
- 基本理念：母なる思川の恵みを活かし、市民とともに 次代に引き継ぐ「水と緑と大地」の回廊づくり
- 基本方針：水の回廊づくり…水を活かす  
                   緑の回廊づくり…緑を活かす  
                   大地の回廊づくり…歴史を活かす } 暮らしに活かす
- 目標年度：2020年
- 現計画の目標値に対する実績値

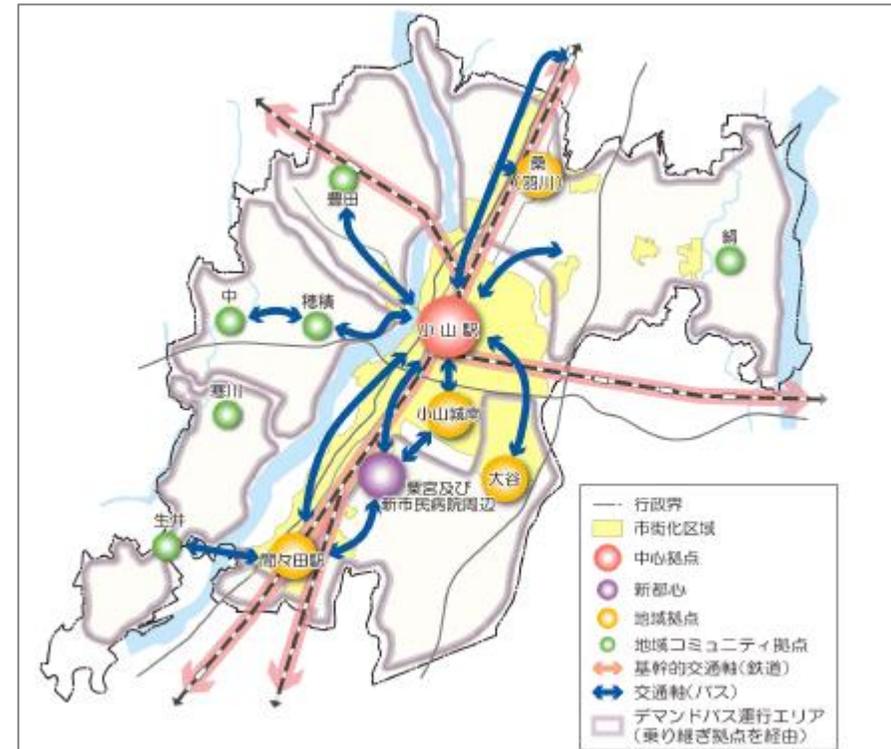
公園種別	2006年目標値			2020年実績値		
	箇所数 [箇所]	面積 [ha]	一人当たり公園 面積[m <sup>2</sup> /人]	箇所数 [箇所]	面積 [ha]	一人当たり公園 面積[m <sup>2</sup> /人]
街区公園	171	29.6	1.8	144	25.6	1.5
近隣公園	23	40.6	2.4	11	16.2	1.0
地区公園	6	24.0	1.4	4	16.0	1.0
総合公園	1	20.6	1.2	2	27.5	1.6
運動公園	2	40.0	2.4	3	52.9	3.2
墓園	1	7.1	0.4	1	7.1	0.4
その他公園	1	20.0	1.2	2	3.5	0.2
都市公園計	205	181.9	10.8	167	148.9	※ 8.9

※計算の都合上、合計数にズレがあります。

## ■ 立地適正化計画

- 2020年1月公表・運用開始
- 都市まちづくりの方針：交通の要衝としてのアドバンテージを最大限に活かした 住みたい・住み続けたいと思われる 魅力ある環境づくり
- 方針ごとの施策・誘導方針（ストーリー）：
  - 方針① 街なかへの居住と都市機能の誘導
  - 方針② 移住・定住人口増加に向けた快適な住環境の形成
  - 方針③ 公共交通ネットワークの充実
- 目標年度：2040年

- まちなか（都市機能誘導区域内）の居住人口の増加



目指すべき都市の骨格構造

指標	基準値 (2015年)	目標値	
		短期 (2025年)	長期 (2040年)
小山駅周辺都市機能誘導区域内の人口密度	52人/ha	55人/ha以上	60人/ha以上
間々田駅周辺都市機能誘導区域内の人口密度	34人/ha	36人/ha以上	40人/ha以上

## ■ 総合都市交通計画

- 2020年3月策定
- 理念：小山の産業・ひと・未来を支える活力と魅力ある交通環境づくり
- 目標年度：2020年～2040年
- 目標値

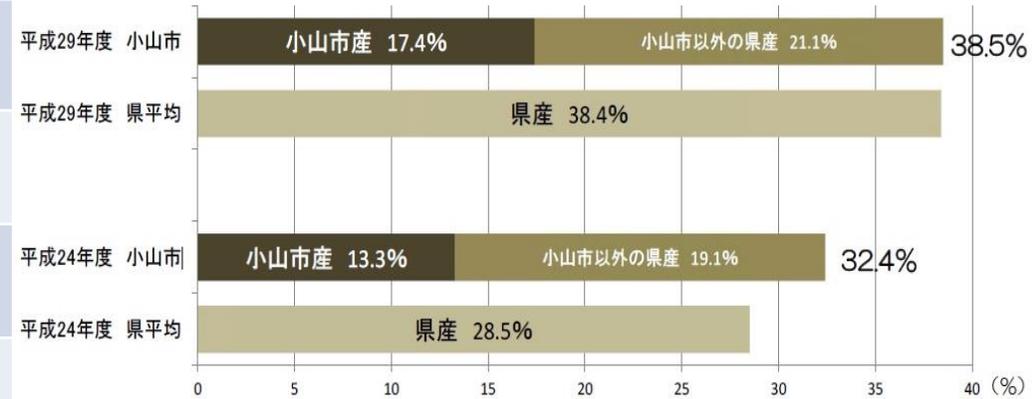
	現況値	目標値(2040年)
まちなか歩行者通行量	2,479人	2,800人
中心市街地への通過交通の流入台数	43	38[千台/日]
国道50号の混雑度	1.2	1.0未満
コミュニティバス利用者数	71.3万人	210万人
利便性の高いバス人口カバー率	25%	65%
自家用車の交通機関分担率	69%	60%
高齢者外出率	58%	65%
自動車交通からのCO2排出量	28.9	21.3[万t-CO2]

## ■第4期おやま地産地消・食育推進計画

- 2019年3月策定
- 基本理念：市民一人ひとりが おやまの食と農を尊重した食生活を送り 健康で豊かな社会の実現と活力ある小山市を目指します
- 基本方針：「食」を支える「農」をもっと身近に  
 パパ・ママからはじまる小山の食育  
 食育の「わ」（和・輪・環）を広げよう
- 目標年度：2023年

主な目標	現状値 (2018年)	目標値 (2023年)
地産地消の意味まで知っている人の増加	73.7%	80%
小山市産・県内産を優先して購入する人の増加	17.0%	20%
学校給食における小山市産野菜・米を使用する割合の増加	22.4%	30%
農林漁業体験を経験した人の増加	52.2%	60%
ふゆみずたんぼ米の生産量の増加	24.4トン	30トン

### • 学校給食における地元農畜産物の使用割合



資料：栃木県の学校給食

注：平成 29 年度は6月と11月の各5日間の調査、平成 24 年度は6月の5日間の調査。

# chapter 4

## ● 市民アンケート調査

## ■ 概要

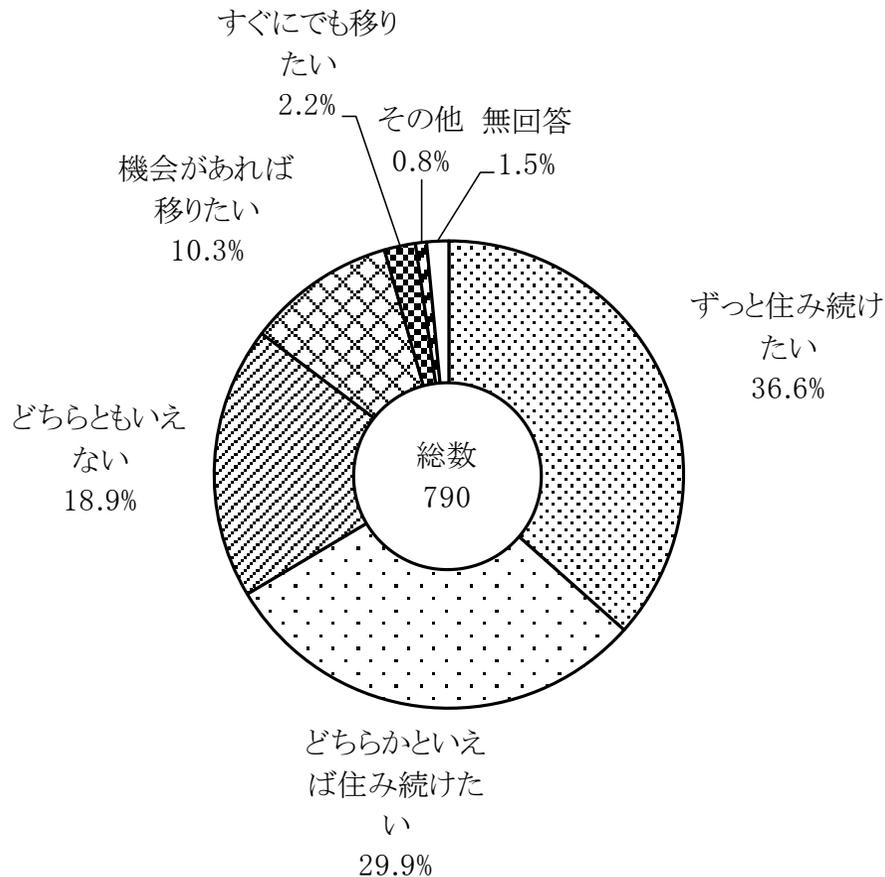
- ・ 調査対象：小山市在住で無作為抽出により選ばれた市民
- ・ 配布票数：2,400票
- ・ 回収票数：790票（回収率33%）
- ・ 実施期間：令和3年10月20日～令和3年11月30日

調査項目	概要	
I 基本属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別</li> <li>・職業</li> <li>・居住年月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢</li> <li>・居住地(地区)</li> </ul>
II 小山市のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山市の将来像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度</li> </ul>
III お住まい周辺の緑・自然環境等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりの総量の方向性</li> <li>・みどりに関する活動への参加意向</li> <li>・自然等とのふれあいの有無</li> <li>・自然環境を守る取り組み</li> <li>・コウノリの取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりに関する活動</li> <li>・自然環境等の魅力の変化</li> <li>・自然環境を守りたい場所</li> <li>・コウノリの評価</li> <li>・持続可能なまちづくりを進めるための取り組み</li> </ul>
IV 小山市のこれからの都市基盤整備等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活への影響</li> <li>・問題に対する取り組みの方向性</li> <li>・公園の要望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの方向性</li> <li>・公園の数や配置</li> </ul>
V 小山市に期待することや意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由回答</li> </ul>	

## ■ 結果概要

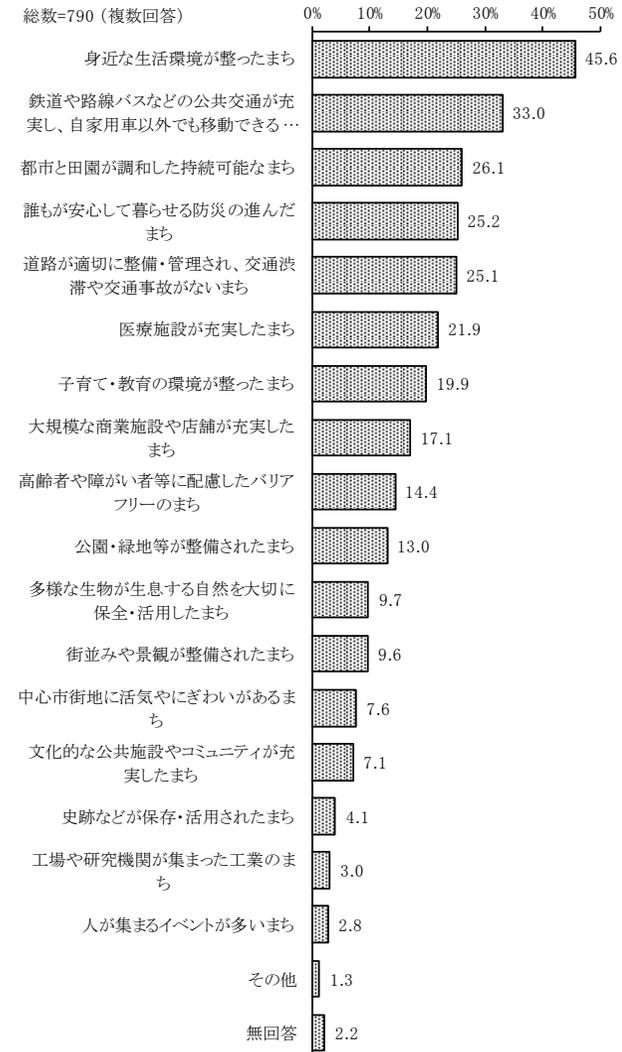
### 1. 定住志向

- 住み続けることに前向きな人は約2/3となっている。



### 2. 希望する将来像

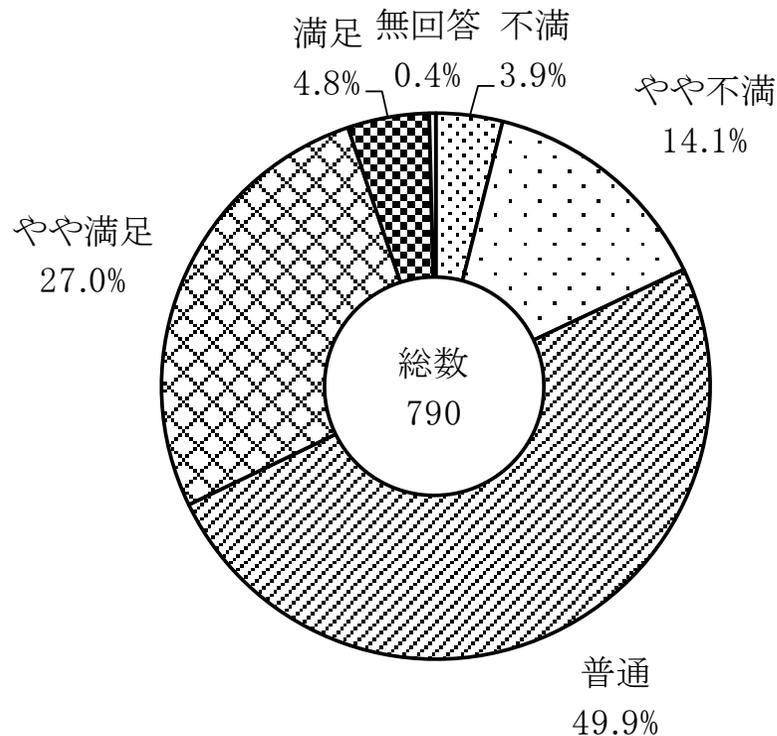
- 生活環境の整備、公共交通の利便性、都市と田園の調和した持続可能なまちが、高い結果となっている。



## 結果概要

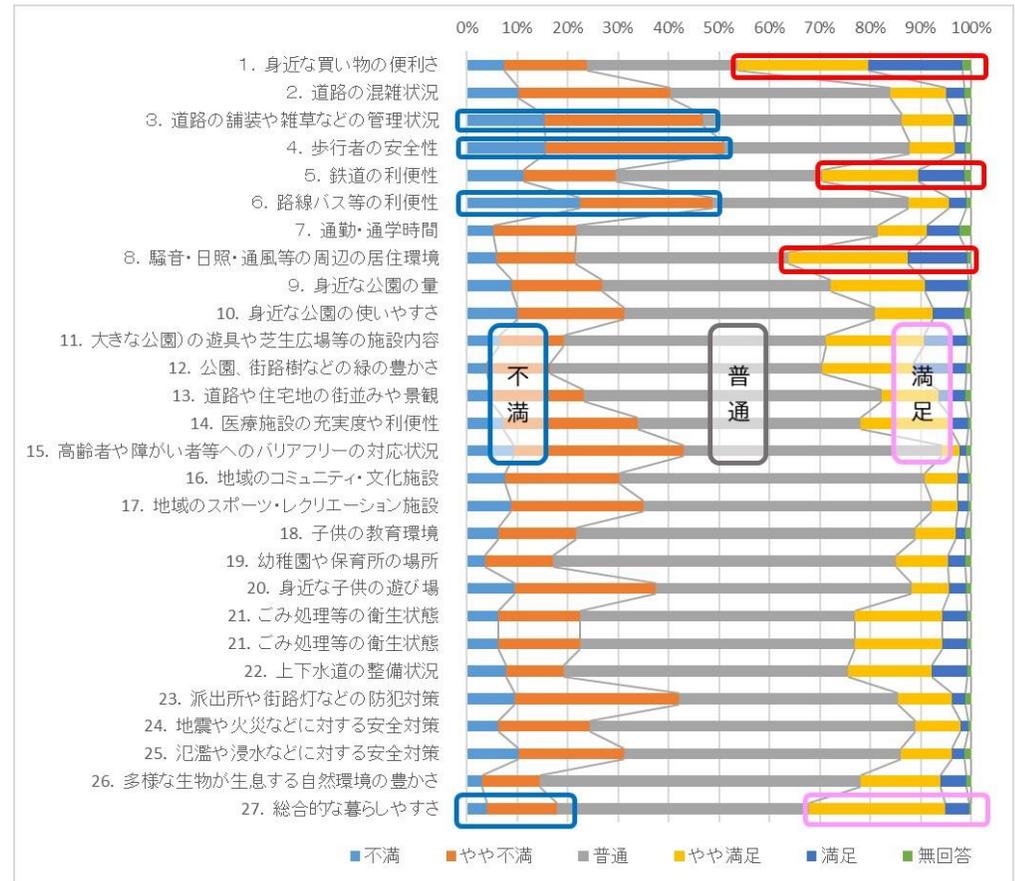
### 3. 生活環境の満足度（総合的な暮らしやすさ）

- 「総合的な暮らしやすさ」に満足している人は、不満に感じている人より多い結果となっている。



### 4. 生活環境で満足・不満に感じる上位の項目

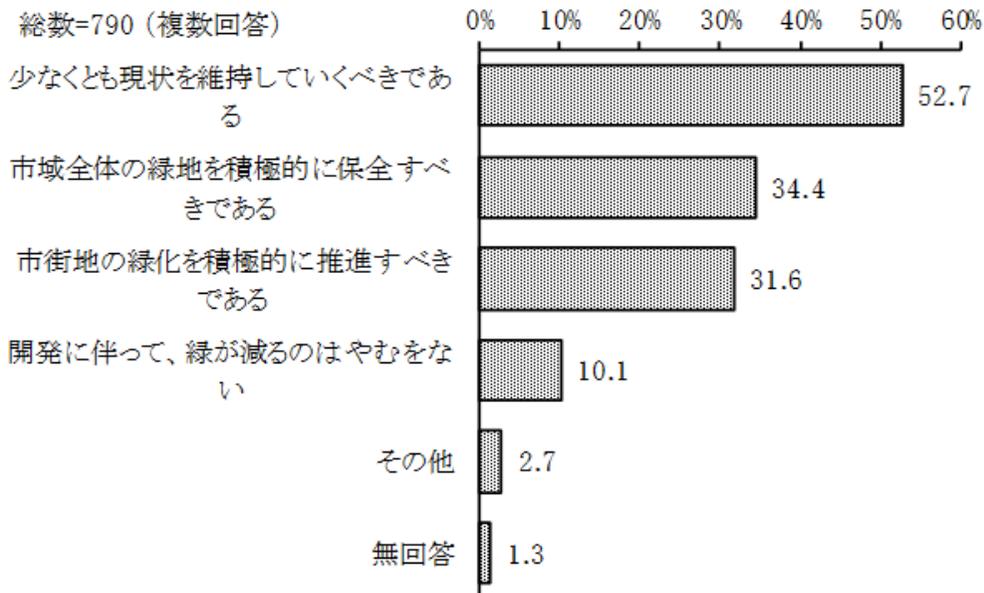
- 満足している項目は、「身近な買い物の便利さ」「騒音・日照・通風等の周辺の居住環境」「鉄道の利便性」
- 不満に感じる項目は、「歩行者の安全性」「道路の舗装や雑草などの管理状況」「路線バス等の利便性」



## ■ 結果概要

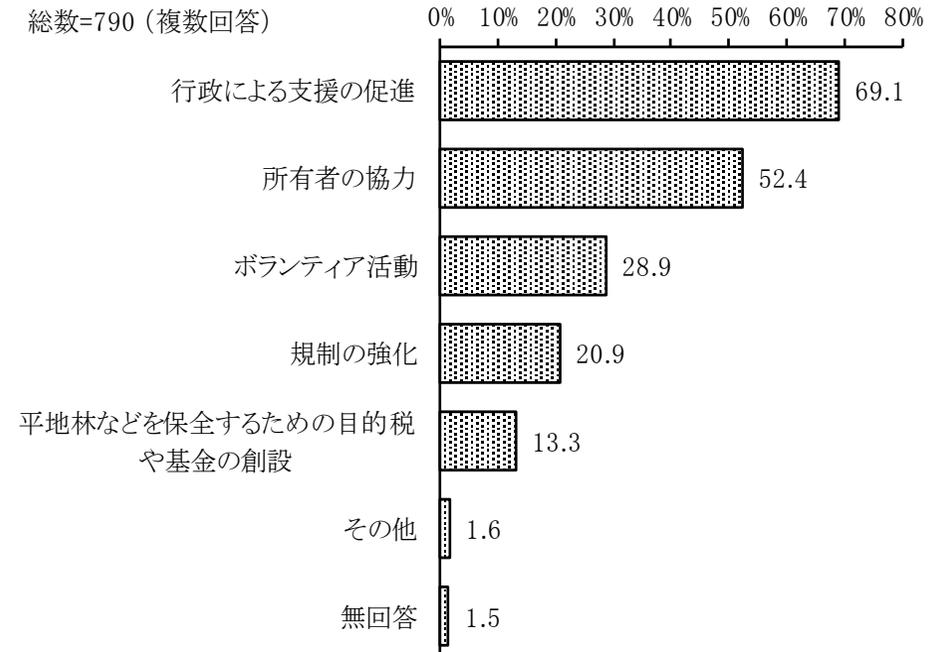
### 5. 「緑地の保全」と「緑化の推進」についての考え

- 緑地の保全や緑化の推進については、前向きな意見が多数を占めている。



### 6. 「緑地の保全」に関連し、平地林を守るため必要なこと

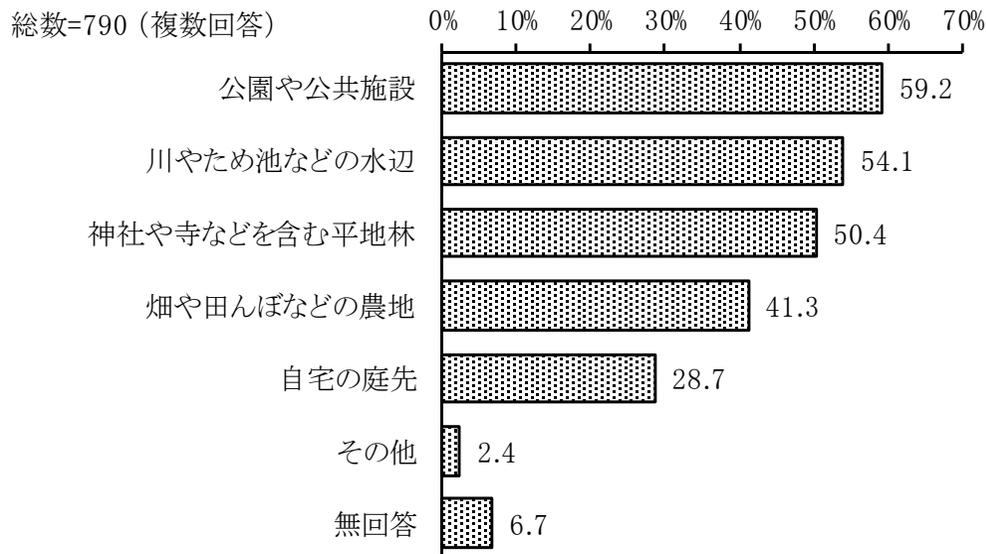
- 平地林を守るには、行政による支援を望む人が約7割である。



## ■ 結果概要

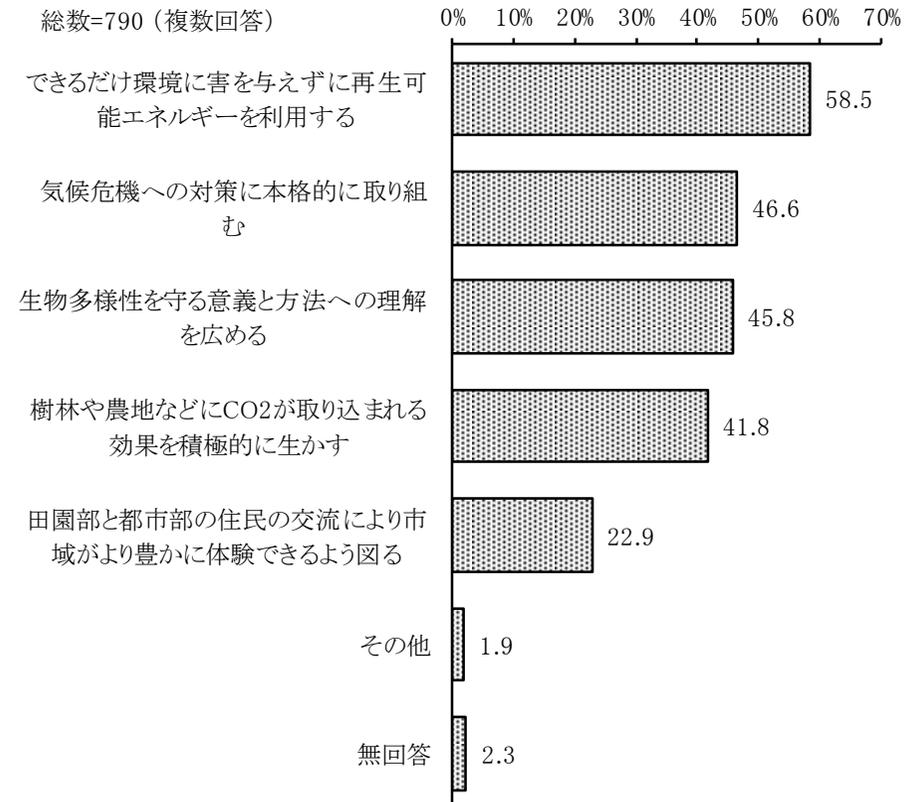
7. 普段の生活や過去の経験、思い出などから豊かな自然環境を守りたいと思う場所

- 豊かな自然環境を守りたい場所としては、公園や公共施設が最上位となっている。



8. 「田園環境都市 小山」として優れた地域資源を生かし、持続可能なまちづくりを進めるために、重要な取り組み

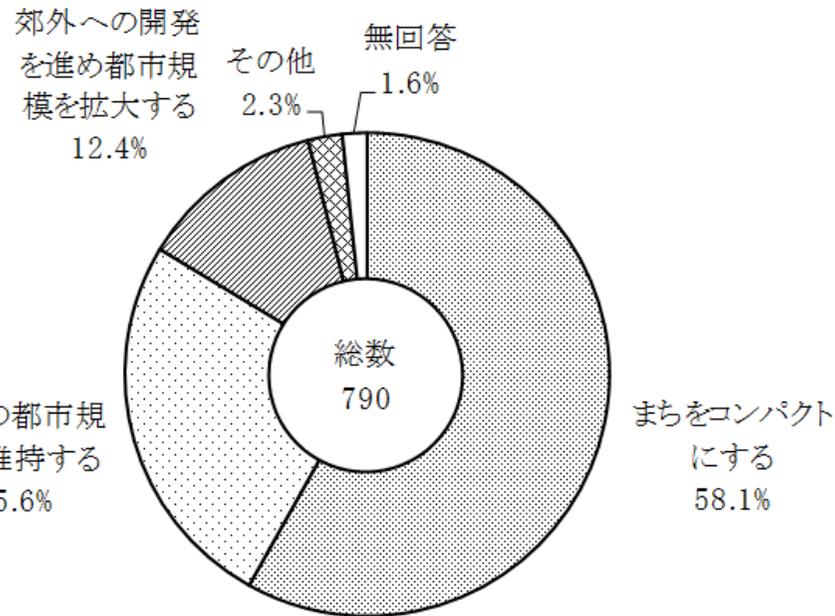
- 自然再生エネルギーが重要視されている。



## ■ 結果概要

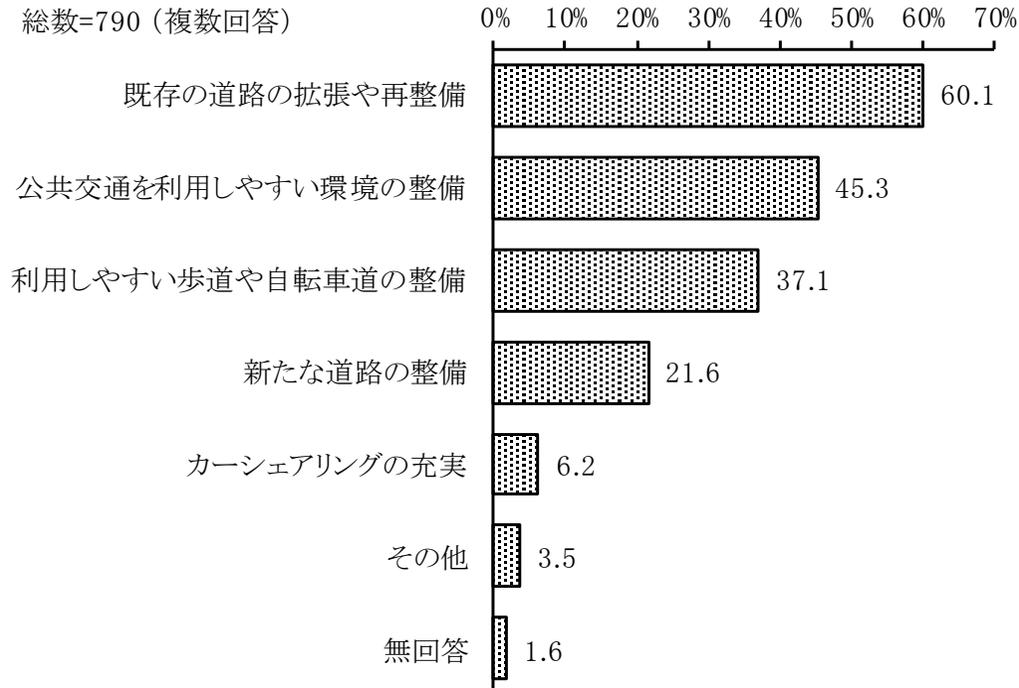
9. 人口減少等の問題に対応し今以上に快適に暮らすために今後、行っていくべきまちづくり

- コンパクトシティに賛同する意見が過半数を占めている。



10. 市内で慢性的に発生している交通渋滞などの問題に対し、効果的な取り組み

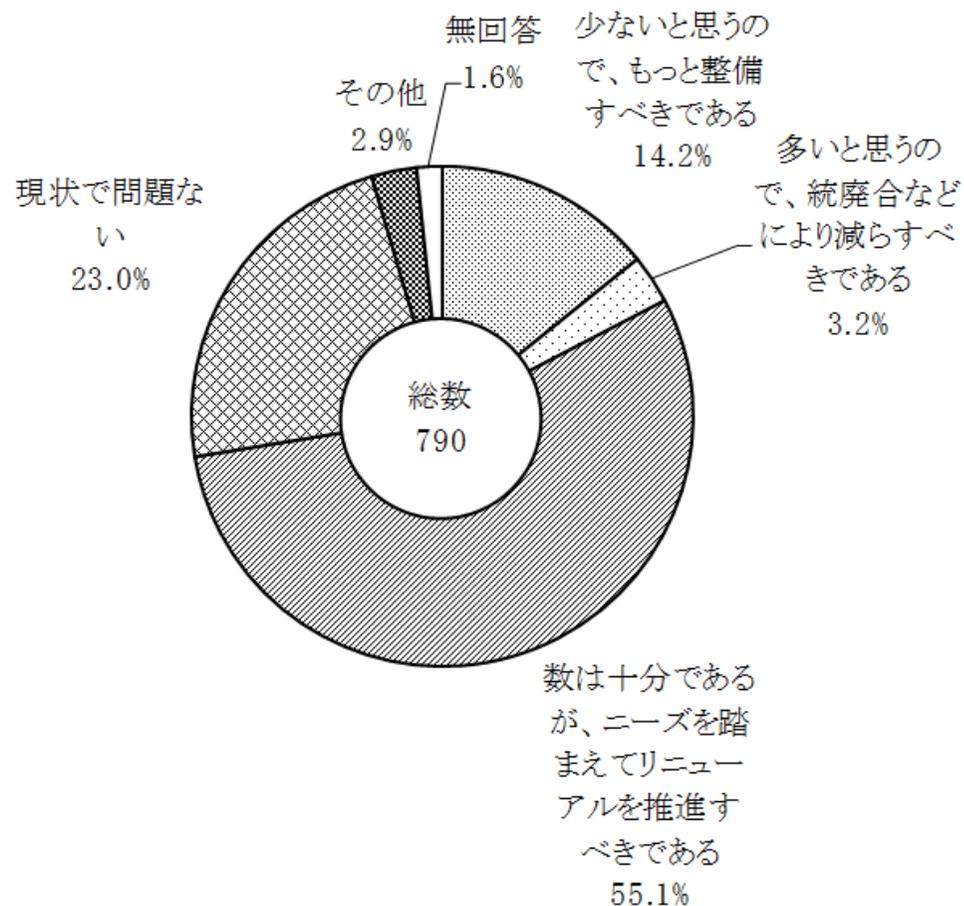
- 既存の道路の拡幅や再整備が、渋滞緩和のために望まれている。



## ■ 結果概要

## 1 1. 今後の公園の数や配置について、行っていくべきこと

- 公園数は十分と認識されているものの、そのリニューアルが望まれている。



## ■ 結果とりまとめ

### 主な意見：

- ① 市街地の拡大を望む声は少ない
- ② 総合的な暮らしやすさに満足している人は不満を感じる人より多い  
満足度高い：身近な買い物の便利さ、騒音・日照・通風等の周辺の居住環境、  
鉄道の利便性など  
満足度低い：歩行者の安全性、道路の舗装や雑草などの管理状況、  
路線バス等の利便性など
- ③ 渋滞対策として、既存道路の再整備を望む意見が最も多い  
また、公共交通（バス）や歩行者・自転車道の整備を望む意見も多い
- ④ 公園数の増加より、既存公園のリニューアルを望む声大きい
- ⑤ 緑地の保全、緑化の推進を望む声大きい

# Chapter 5



## 風土性調査

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます\*。

\* 藺田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

風土は、人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります\*\*。

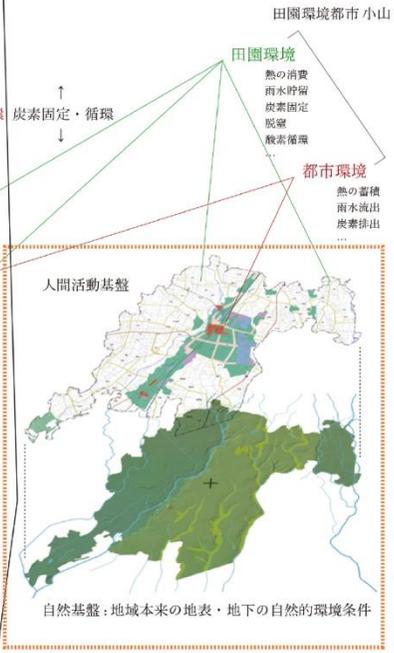
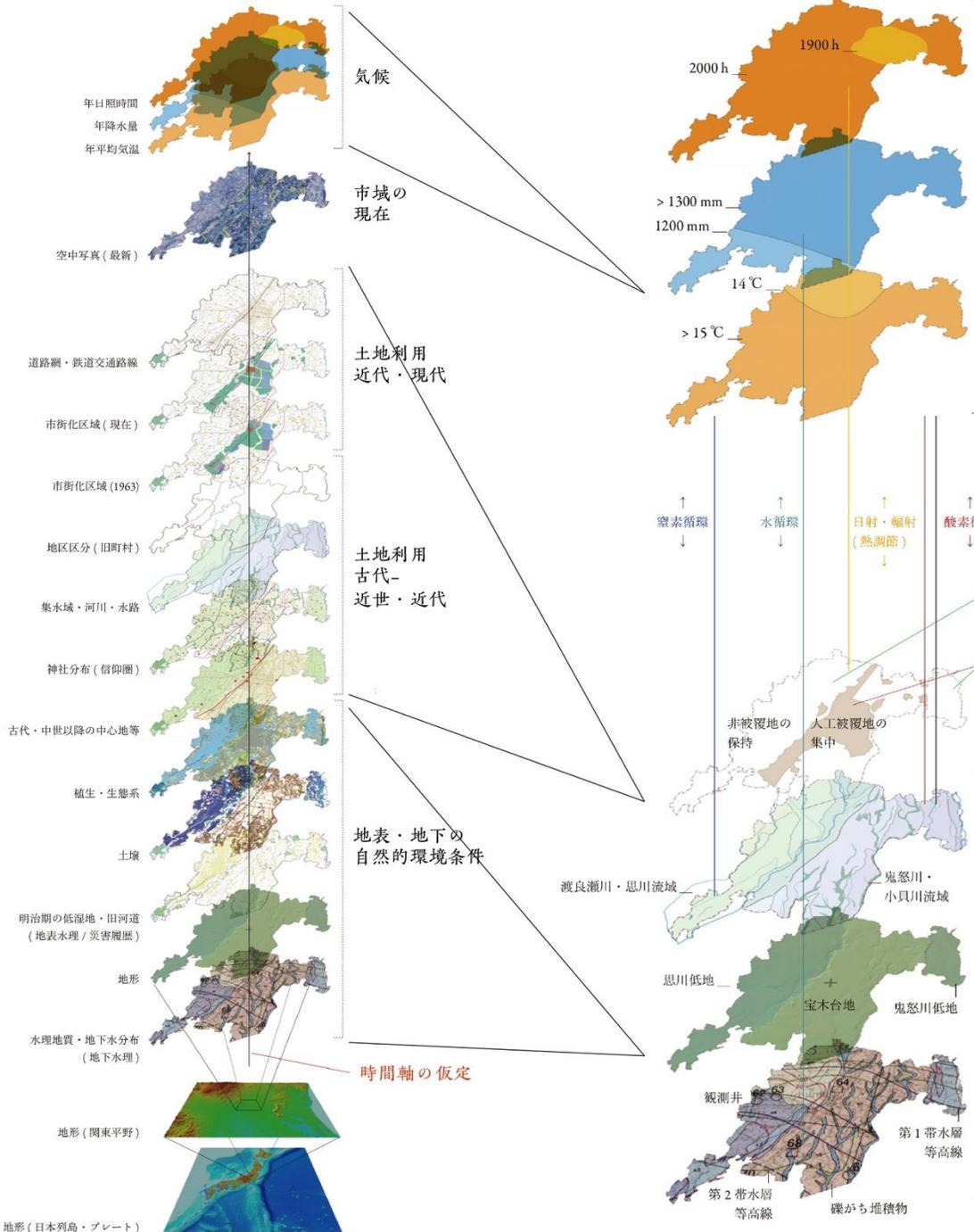
\*\* アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

# 風土性調査の実際:

気候 (気候危機への対応を含む)

田園環境都市 小山の充実と継承への都市づくりの面からの貢献

人工被覆地が集中する都市環境と非被覆地を主とした田園環境における諸物質の循環の阻害の有無への留意、防災・減災、衛生等への対応を諸人間活動への対応に重ね合わせて計画を検討する。



自然への人の働きかけの歴史を確かめながら、風土の成り立ちの理解を。



降雪/降水

(山・水源)  
水分神



水源涵養

水利のイメージ ▼ ▲



生物生産/農業

(山麓)  
山口神

▼ ▲ 産育のイメージ



食料確保/経済活動

(里・生産)  
御県神

広瀬大忌神

\* 治水も祈願



海から山への物質循環

出典: 藪田稔『祭りの現象学』(弘文堂、1990年) 267頁掲載の図を廣瀬加工、2022年

地域の持続は、言い換えれば「風土」の継承に。

出典: 藪田同書、263頁

報告資料 | LLP風景社 2022/01/18作成 — 13

2022/01/25 小山市片内勉強会「田園都市ケーススタディ1」におけるLLP風景社発表資料, 13葉。

風土は、物質の巡りの中に人間の営みも含んだ、  
身近な生活世界。その成り立ちは、持続可能な...



2030年までに持続的でよりよい世界をめざす持続可能な開発目標“SDGs”の17のゴール(2015年9月の国際連合サミットで採択)

SDGs達成の基礎に、生態系サービスの保持が。

出典: 国際連合ウェブサイト | Sustainable Development Goals: SDGs <https://sdgs.un.org/goals> (2021年3月19日)

報告資料 | LLP風景社 2022/01/18作成 — 11



食料

繊維

薬品

供給サービス: 食料(写真左)、繊維(同中央)、燃料、生化学物質や薬品(同右)



水

花粉媒介

減災

調整サービス: 大気/気候・水の調節(写真左)、疫病の予防、病害虫の予防、花粉媒介(同中央)、自然災害の被害低減(同右)

生態系サービスの概要。

出典: Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアム生態系評価』横浜国立大学21世紀COE国際委員会責任編集, オーム社, 2007年, 65-68頁

2022/01/25 小山市市内勉強会「田園都市ケーススタディ 1」におけるLLP風景社発表資料, 11, 12葉。

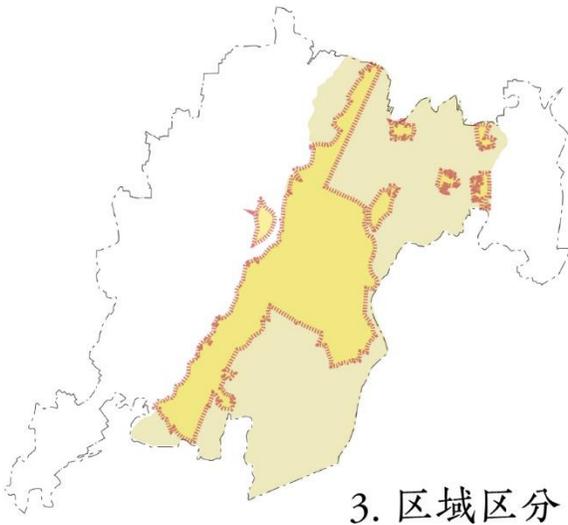
SDGs達成の基礎に、生態系からもたらされる人間にとっての諸便益が。その保持は、持続可能なまちづくりの実行にとっても基礎に。



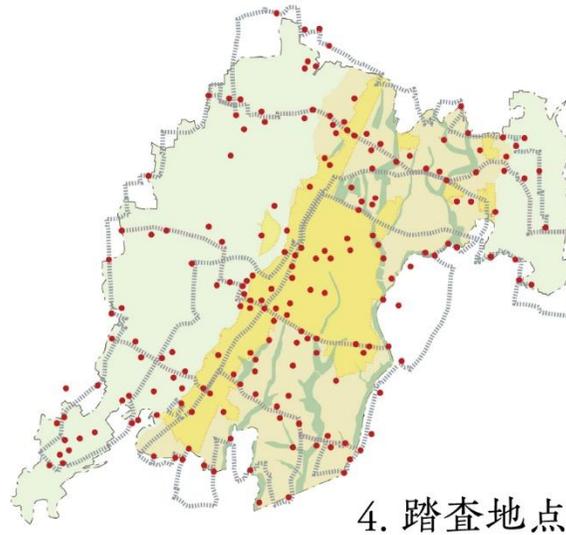
1. 市域範囲



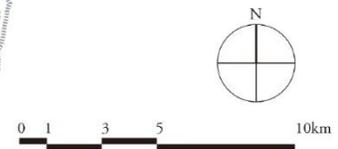
2. 地形変化



3. 区域区分



4. 踏査地点



小山市踏査経路・地点図

2021/09/15-11/12

縮尺 1:150,000

(仮称)小山市都市づくりのマスタープラン策定業務委託  
風土形成事務所

出典: 国土地理院「地理院地図」<https://maps.gsi.go.jp> 2022/02/10 廣瀬俊介(風土形成事務所)加工

出典: 地理院地図 | 標準地図 | 廣瀬加工、2021年

踏査の基本的な視点と経路、地点。

宝木台地斜面林に生える  
シラカシ等

JR小山駅西口周辺

御殿広場

日光街道

御殿広場から東側の方向を見る。中央町、小山中央地区。2020/09/22

続くスライドでは、小山市域の全体と部分を  
現在どのようにとらえているかなど、報告します。



御殿広場から思川の方向を見る。中央町、小山中央地区。2020/09/22

御殿広場から西側を振り返ると、  
市街地がのる台地の斜面林が。



観晃橋から思川下流川を見る。中央町、小山中央地区。2020/09/22

思川に沿って連続する斜面林。



宝木台地斜面林

← 八溝山地 →

中心市街地

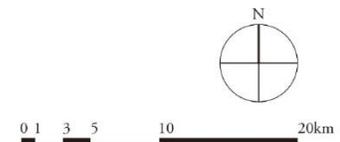
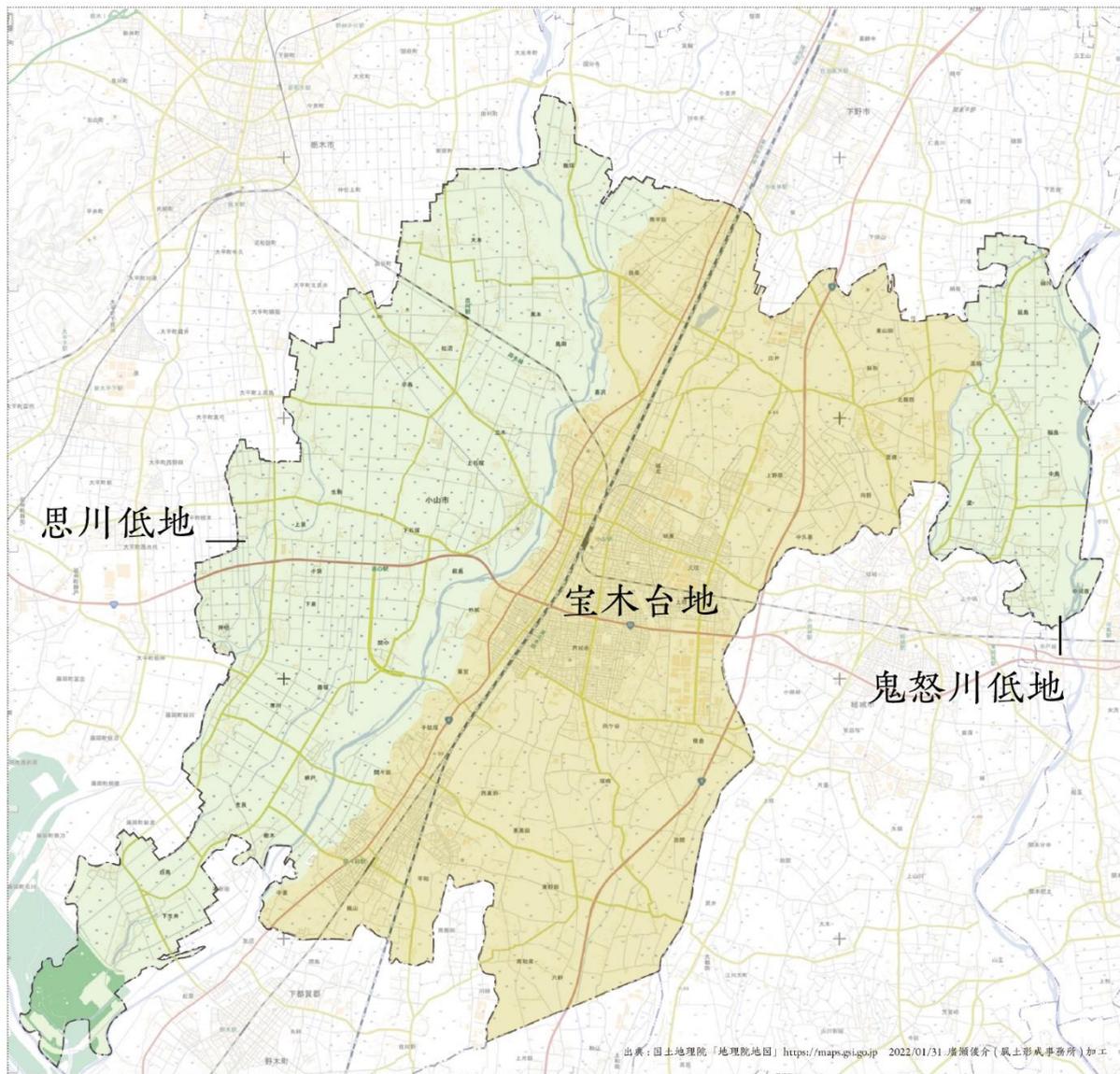
集落の屋敷林群

筑波山

思川低地上の農地

下国府塚 (しもこうづか)、穂積地区。2021/10/06

思川にかたちづくられた低地から、農地、屋敷林、  
台地の斜面林が重なった奥の中心市街地を望む。



小山市地形構成図

2022/02/01

縮尺 1:75,000

風土形成事務所

出典：国土地理院「地理院地図」<https://maps.gsi.go.jp> 2022/01/31 増瀬優介（風土形成事務所）加工

出典：地理院地図 | 標準地図 | 廣瀬加工、2021年

地域、風土の基盤を成す地質、地形への着目から。

宝木台地東縁の斜面林が連続する

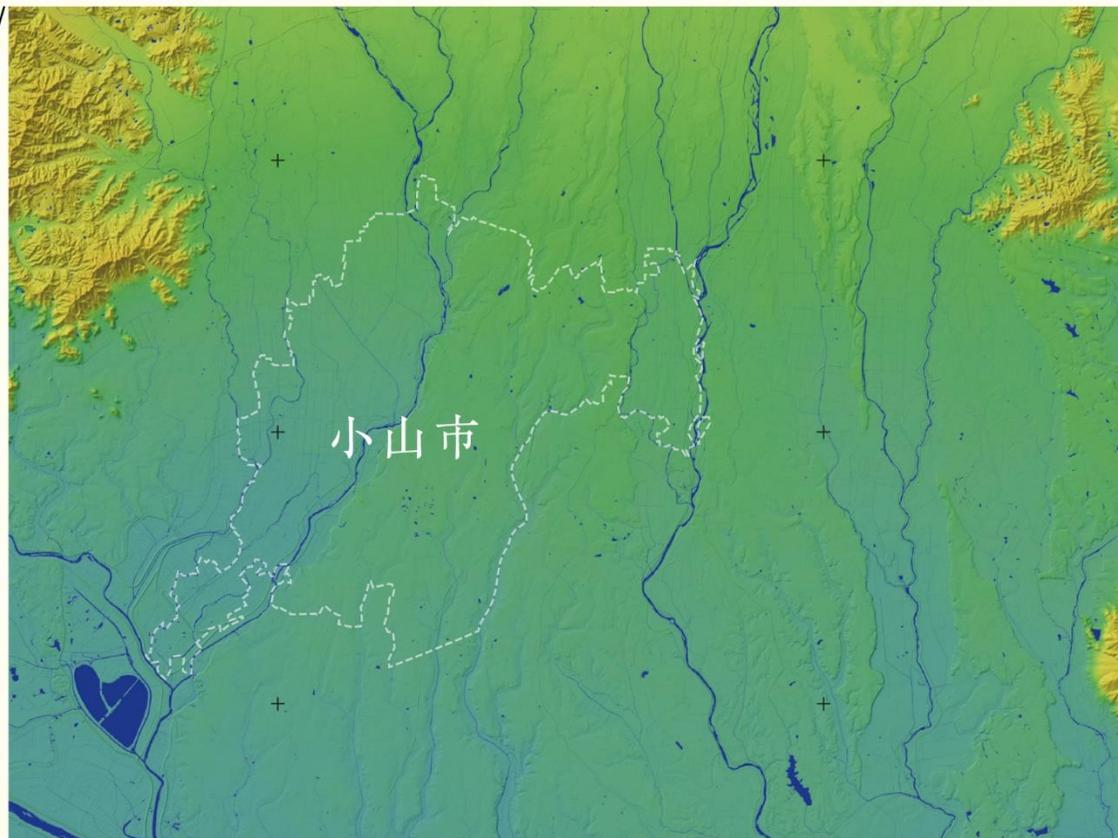
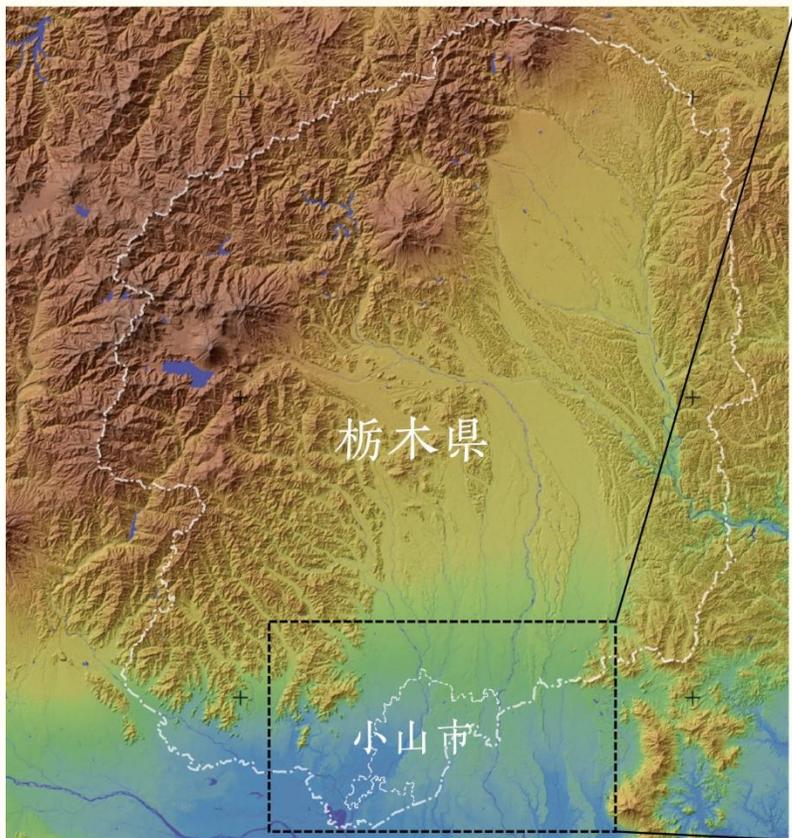
集落の屋敷林群、神社社叢林等

鬼怒川低地上の農地

水陸の移行帯

県道214号、福良羽川線沿いに東側から西側を見る。高椅、絹地区。2021/10/06

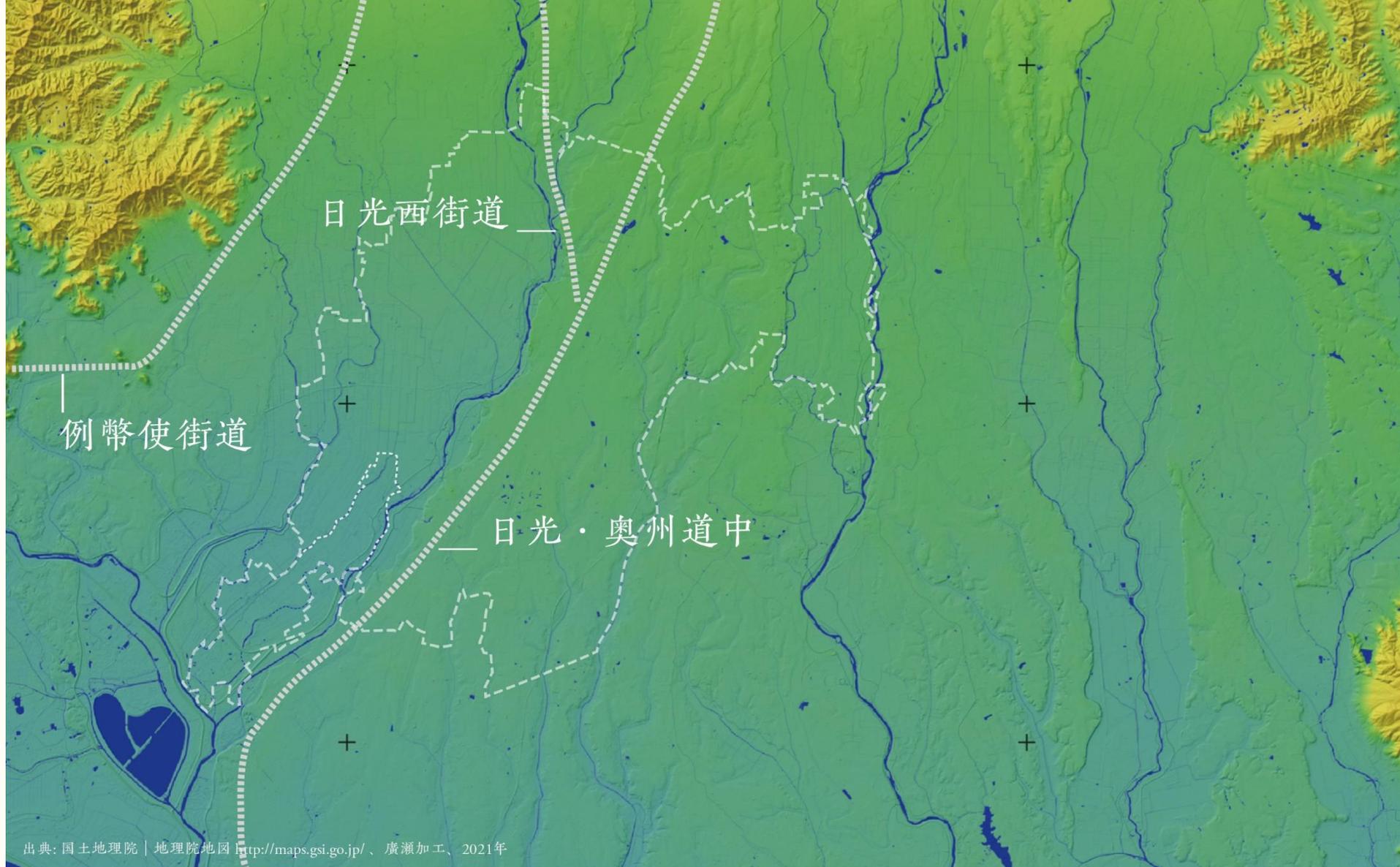
市域東部の鬼怒川低地から宝木台地を見る。



栃木県の地形と小山市の位置 (左図) \*

栃木県南部の地形と小山市の位置 (右図) \*

「栃木県は地形的に見ると東部の比較的低い山地、  
中央部の関東平野、北部から西部のけわしい山地に  
大きく分けられます」 \*\*



主要街道の分布 | 出典: 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁

## 「栃木県の東部山地と西部山地との間の中央低地は」



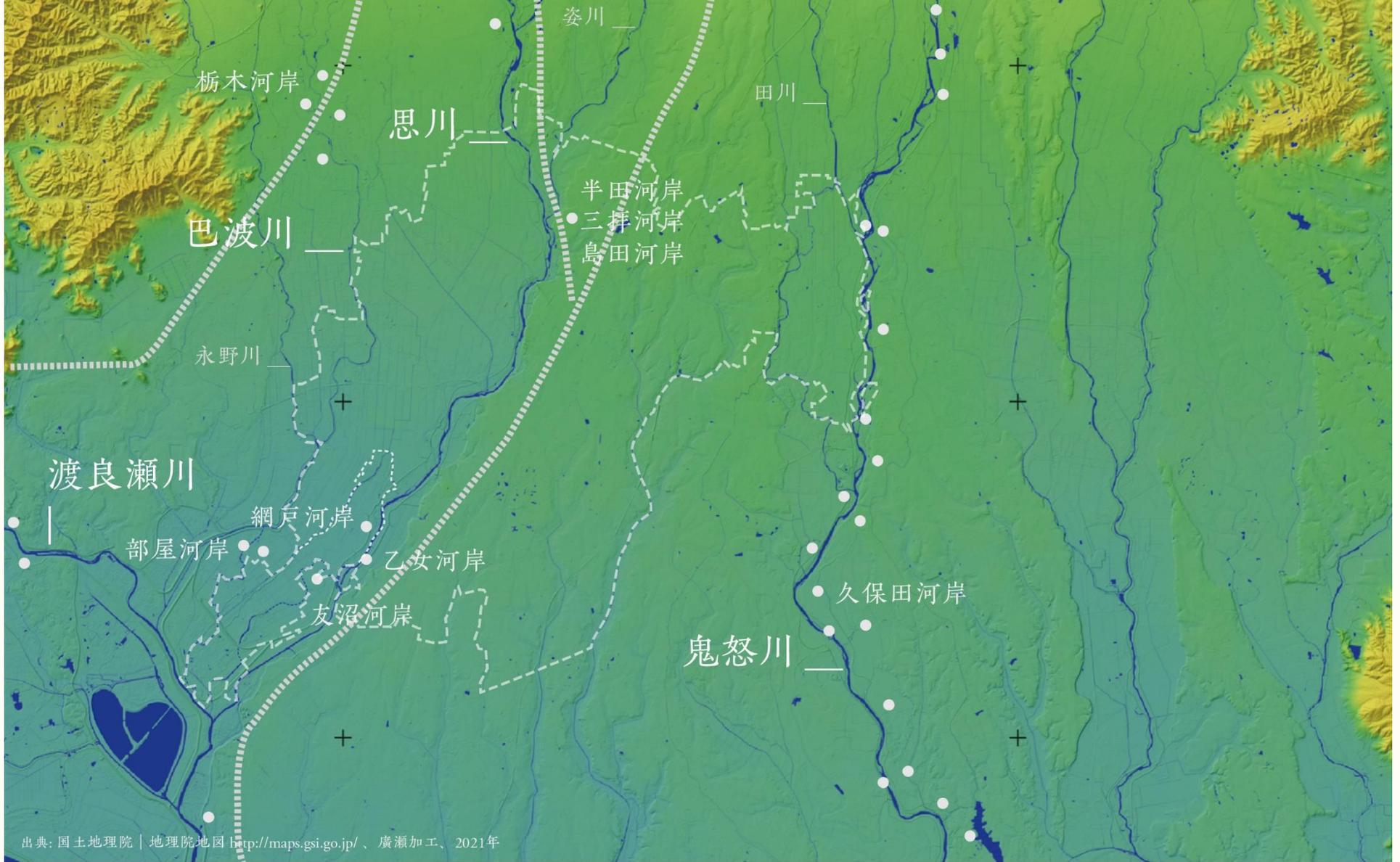
出典: 野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年、総349頁。廣瀬加工、2021年

\* 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年、総384頁 \*\* 『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年、総111頁

「古来日本列島の主要な縦断交通路となっていた」\*\*\*

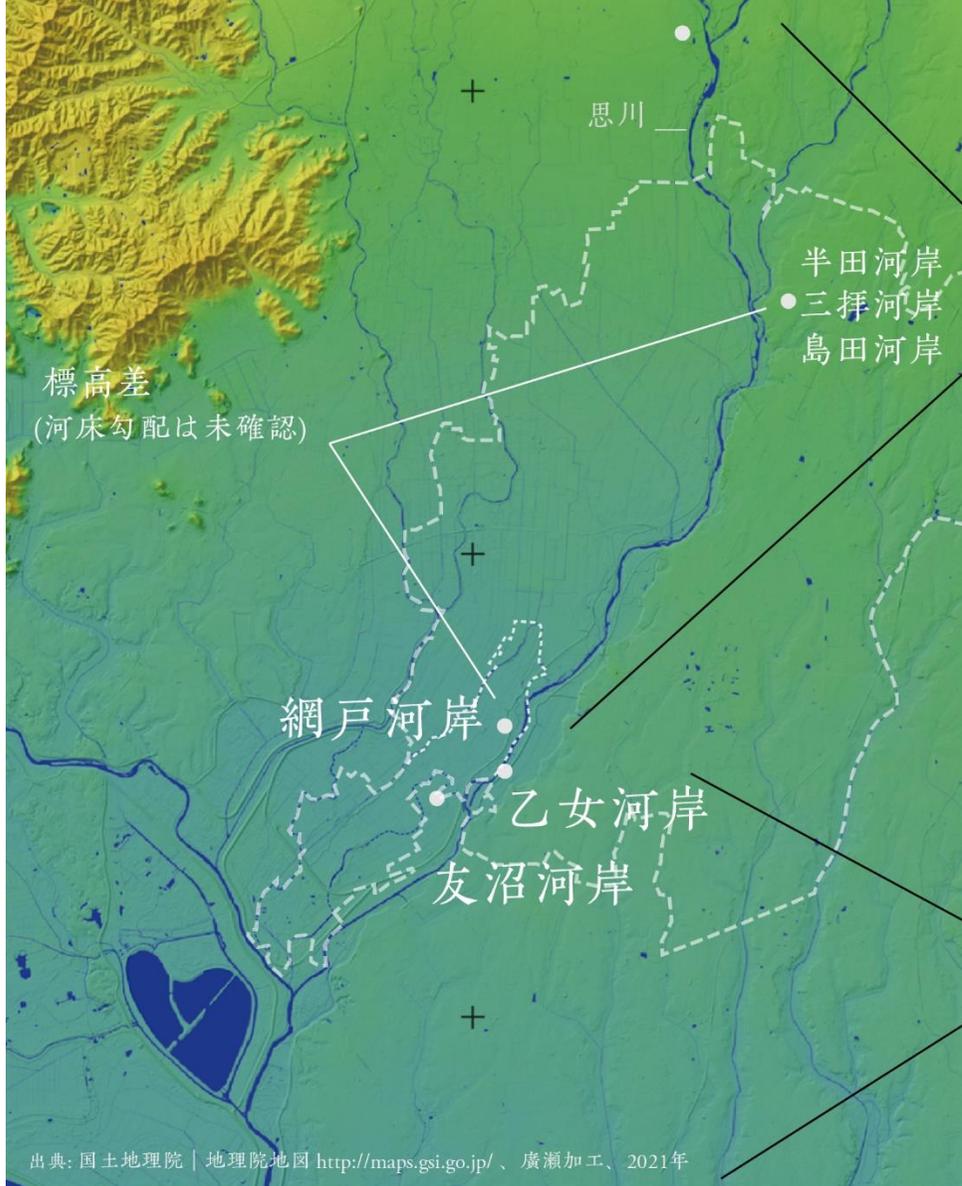
「市の西南部 - 寒川・生井地区は、水郷地帯」\*\*\*

\*\*\* 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁



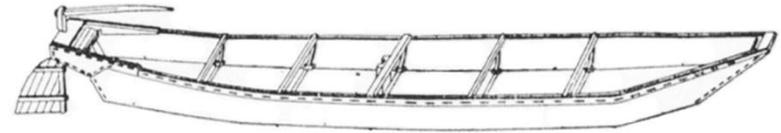
渡良瀬川、巴波川、思川、鬼怒川の河岸の分布 | 出典: 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

「内陸では川や湖も、道路とともに交通路に利用」



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>、廣瀬加工、2021年

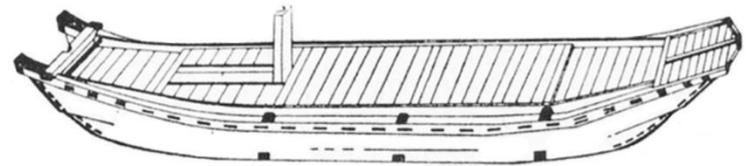
思川沿川の河岸の分布\*



べが(か)ぶね

### 部賀舟

「乙女・網戸・友沼河岸は、下流からきた荷物をさらに上流の浅い河川にあった部賀舟につみかえる中継積換河岸として(後略)」



ぼうちょうたかせぶね

### 房丁高瀬船

「乙女より下流(中略)房丁高瀬船(後略)」

思川舟運で使われた部賀舟と房丁高瀬船\*\*

「思川は、乙女附近を境にして上流は傾斜が急で」\*

\* 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

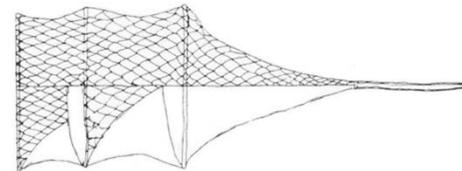
\*\* 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁



水神宮、榎木。2021/06/23



ザンブリ  
(全長105cm)。  
水上から魚にかぶせる。  
マダケ、アズマネザサ、  
木綿糸を材料とする



アミウケ (全長81cm)。  
旧巴波川、旧思川などで、  
4月-5月上旬に川辺へ仕掛け、  
産卵に寄るコイ、フナをとる。  
材料はマダケ、ミズイト



ウナギウケ (全長68cm)。  
川縁、浅瀬で口を川下へ向け、  
餌を入れてウナギを誘う。  
材料はマダケ、シュロ縄

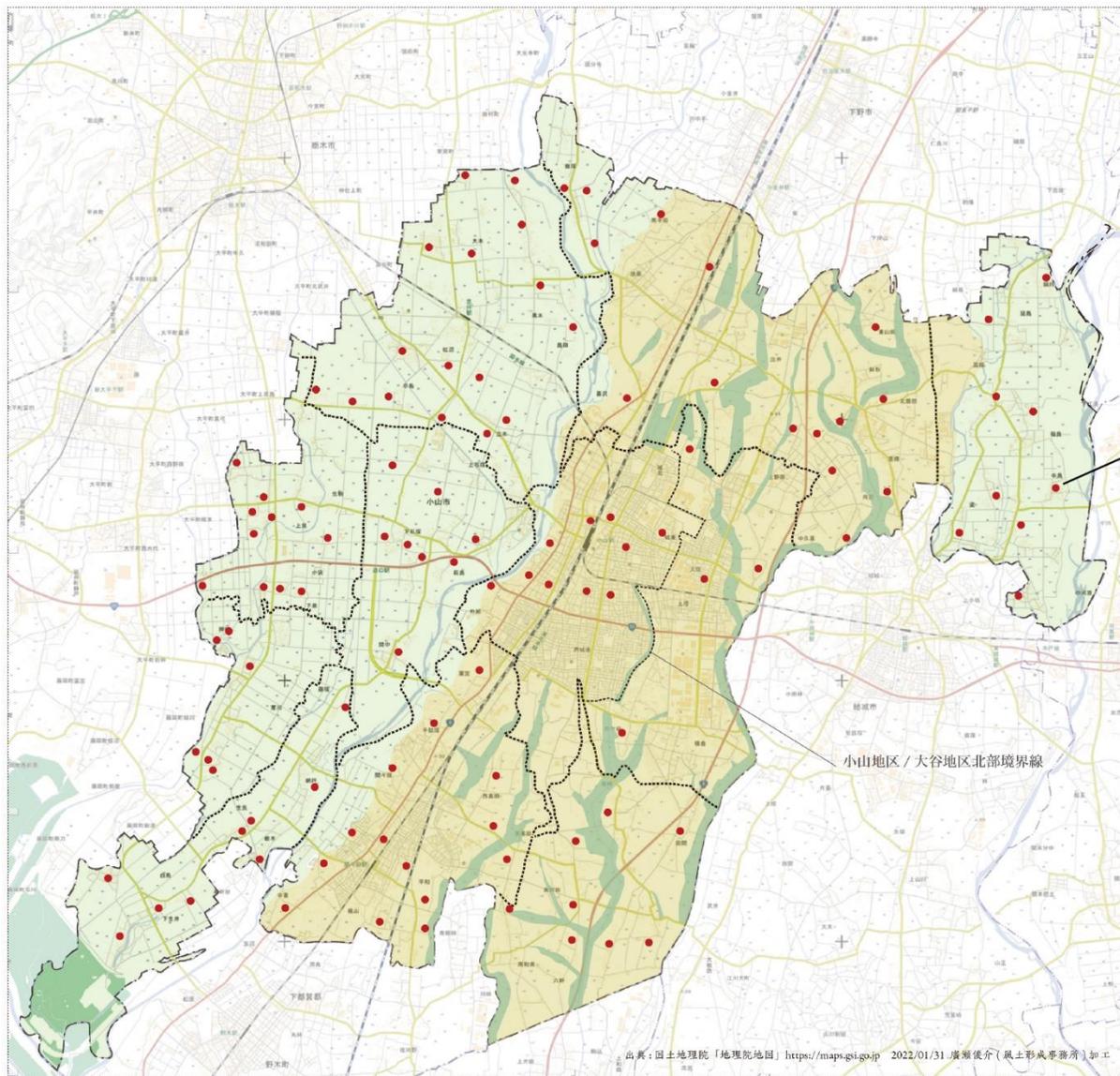
白鳥で用いられた漁具の例。出典：『下野の漁撈習俗』\*

「水神の指す方向は堤防の切れ所などが一般的」\*\*

「水神宮の祭り (中略) この日は大杉さまとも」\*\*

「魚とりの守護神はほとんど水神であるという」\*

\* 栃木県立郷土資料館編『下野の漁撈習俗』栃木県教育委員会、1975年、総67頁 \* 藤岡町古文書研究会「洪水常襲地域における水神信仰と水防意識の実態調査・研究報告書」2007年、総39頁



神社の位置を表す

(仮に地理院地図 縮尺 1:10000 表示情報に限定)

● 神社 (地理院地図 縮尺 1:10000 に記載)



0 1 3 5 10 20km

小山市神社分布図 (作業中)

2022/02/02

縮尺 1:75,000

(仮称) 小山市都市づくりのマスタープラン策定 業務委託  
風土形成事務所

出典: 国土地理院「地理院地図」<https://maps.gsi.go.jp> 2022/01/31 廣瀬俊介(風土形成事務所)加工

出典: 地理院地図 | 標準地図 | 廣瀬加工、2022年

神社の分布を見る。台地の上には水神社がないが...



白鬚神社の神泉。写真左は「清水」。出井、桑地区。2021/10/20

白鬚神社の神泉。

主祭神は、猿田彦命 (みちびき、みちひらきの神とされる)。

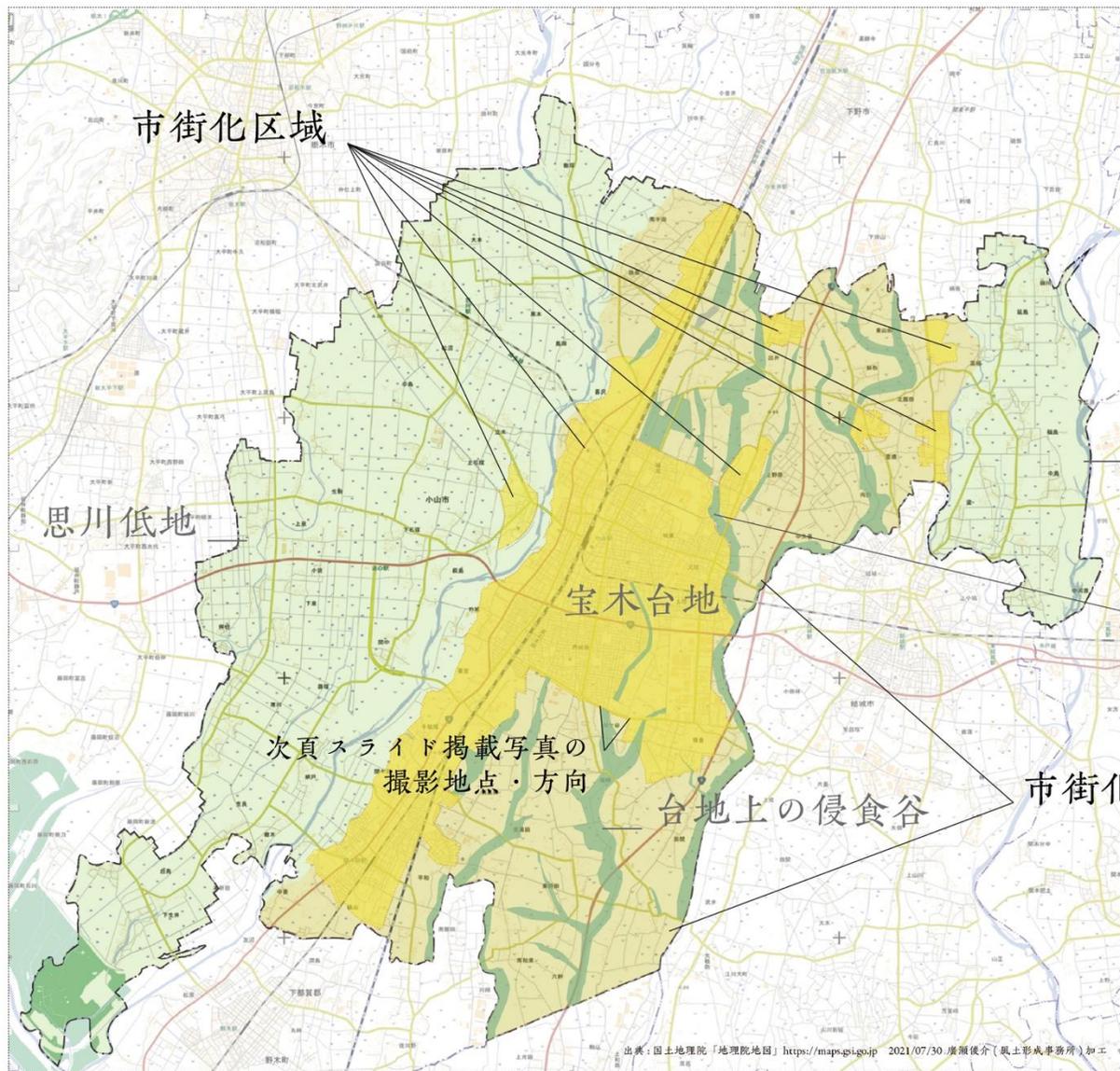
台地の上には、他にも溜などの水源地、貯水池が。

侵食谷に接する斜面に残る樹林

宝木台地上の侵食谷

出井、桑地区。2021/10/20

白鬚神社神泉下流側の侵食谷。  
谷底に農地がつくられ、斜面に樹林が残る。



鬼怒川低地

市街化区域に  
含めなかった侵食谷

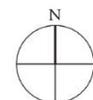
市街化調整区域

台地上の侵食谷

次頁スライド掲載写真の  
撮影地点・方向

思川低地

市街化区域



小山市踏査(経路)地点図  
3水源地・史跡(2021/10/19-20)  
縮尺 1:75,000

(仮称)小山市都市づくりのマスタープラン策定業務委託  
風土形成事務所

出典: 国土地理院「地理院地図」<https://maps.gsi.go.jp> 2021/07/30 廣瀬優介(風土形成事務所)加工

出典: 地理院地図 | 標準地図 | 廣瀬加工、2021年

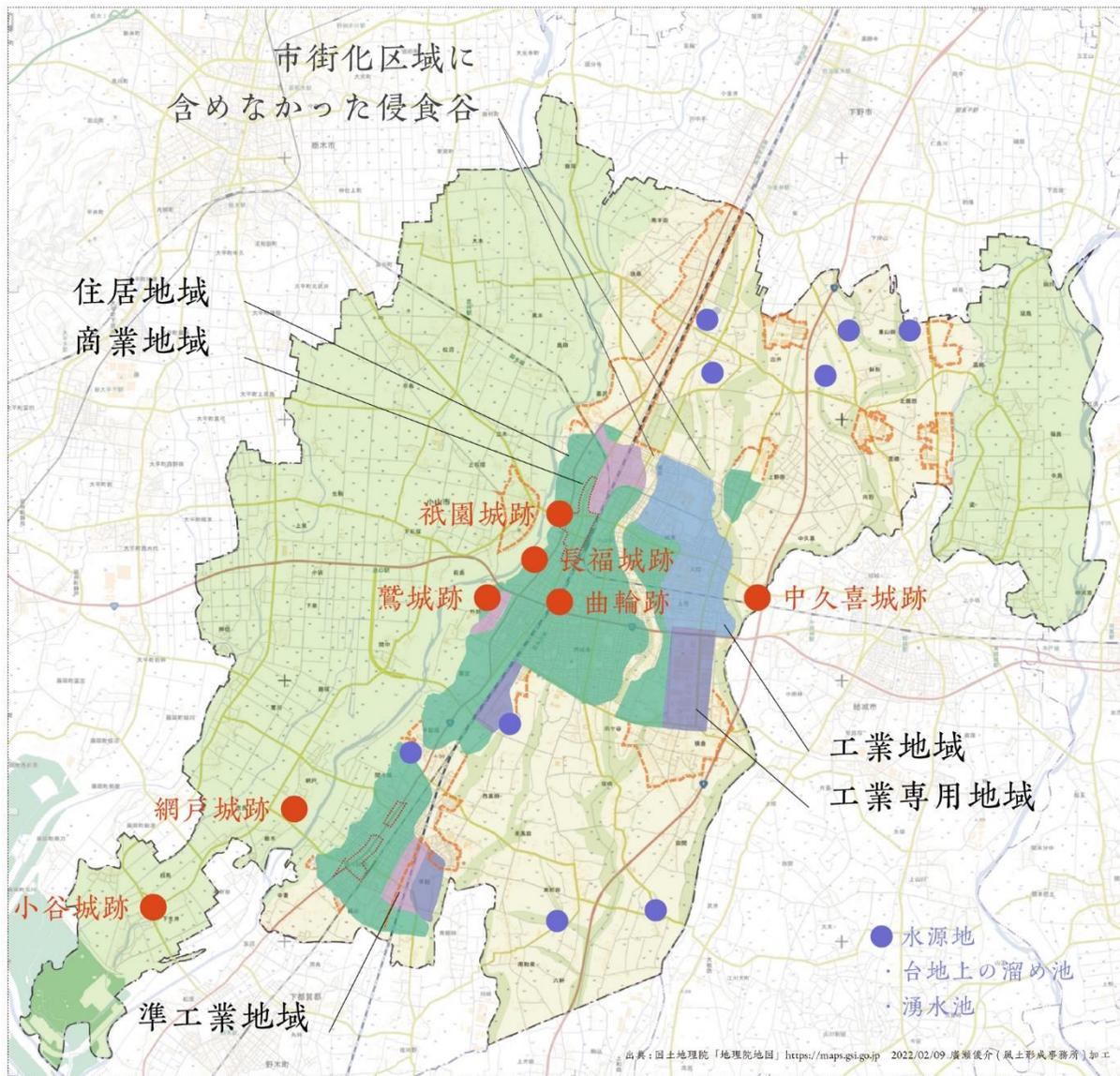
市街化区域では、侵食谷の開発も進められたが、



点線より奥が市街化区域、  
手前が市街化調整区域

雨ヶ谷、小山中央地区。農地を中心として土地利用がされる市街化調整区域から市街化区域を望む。2021/11/12

市街化区域(写真奥)と市街化調整区域(同手前)における比較的明瞭な土地利用区分は、雨水の地下浸透と流出抑制、熱環境調節、低炭素化等に結びつく。



0 1 3 5 10 20km

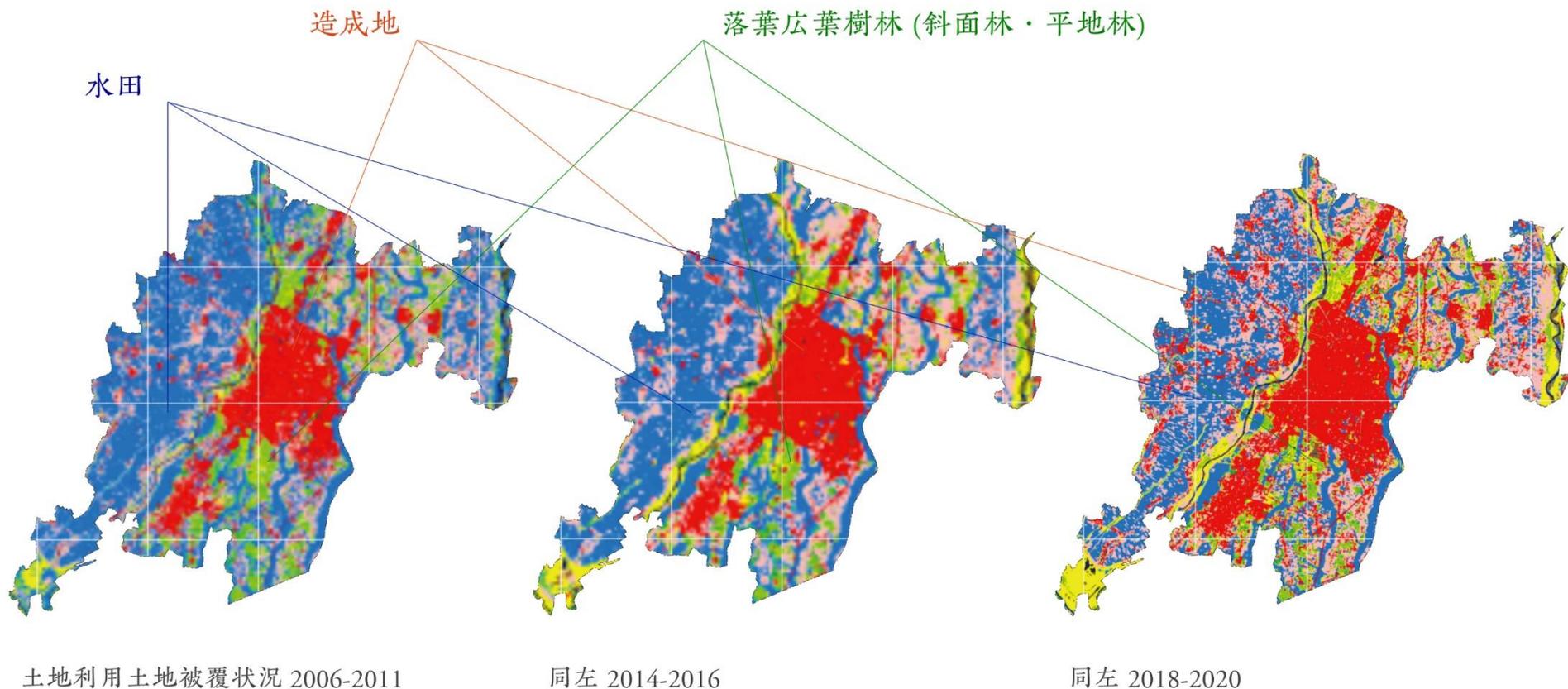
小山市地域環境容量(仮)検討図  
中世城部・灌水系・都市計画(2022/02/10)

縮尺 1:75,000

(仮称)小山市都市づくりのマスタープラン策定業務委託  
風土形成事務所

出典: 地理院地図 | 標準地図、「小山市市街地開発整備計画」1963年、廣瀬加工、2022年

都市と現市街地の関係は (土地の生産力、地域環境容量も)。



出典: ALOS 利用推進研究プロジェクト | 高解像度土地利用土地被覆図 [https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/jp/dataset/lulc\\_j.htm](https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/jp/dataset/lulc_j.htm)

ただし、市域の土地利用と土地被覆の状況を細かく見れば、市街化調整区域にも造成地 (赤色) が点々と増え、斜面林・平地林 (緑色) の縮小・分断が



美しが丘、間々田地区。2021/10/05



間々田東小学校。間々田、間々田地区。2021/11/12

斜面林・平地林は、折り重なる木々の枝葉により  
雨水\*や夏季の日射が地面へ達する量を減らし...。  
雨水流出抑制→治水、熱環境調節→低炭素化（農地を含む土壌の炭素貯留も）に。

\*管理放棄林で15.6%が樹冠より蒸発。恩田裕一編『人工林荒廃と水・土砂流出の実態』岩波書店、2008年、54-55頁 林内雨 84.4% (表面流14.6%、有機質土壌中の移動46.3%、貯留10.1%、深部浸透13.4%)



水害防備林。下生井、生井地区



屋敷林。網戸、生井地区



台地斜面林、公園等。小山中央地区



平地林。間々田、間々田地区



工場緑地、小山東工業団地。延島、絹地区



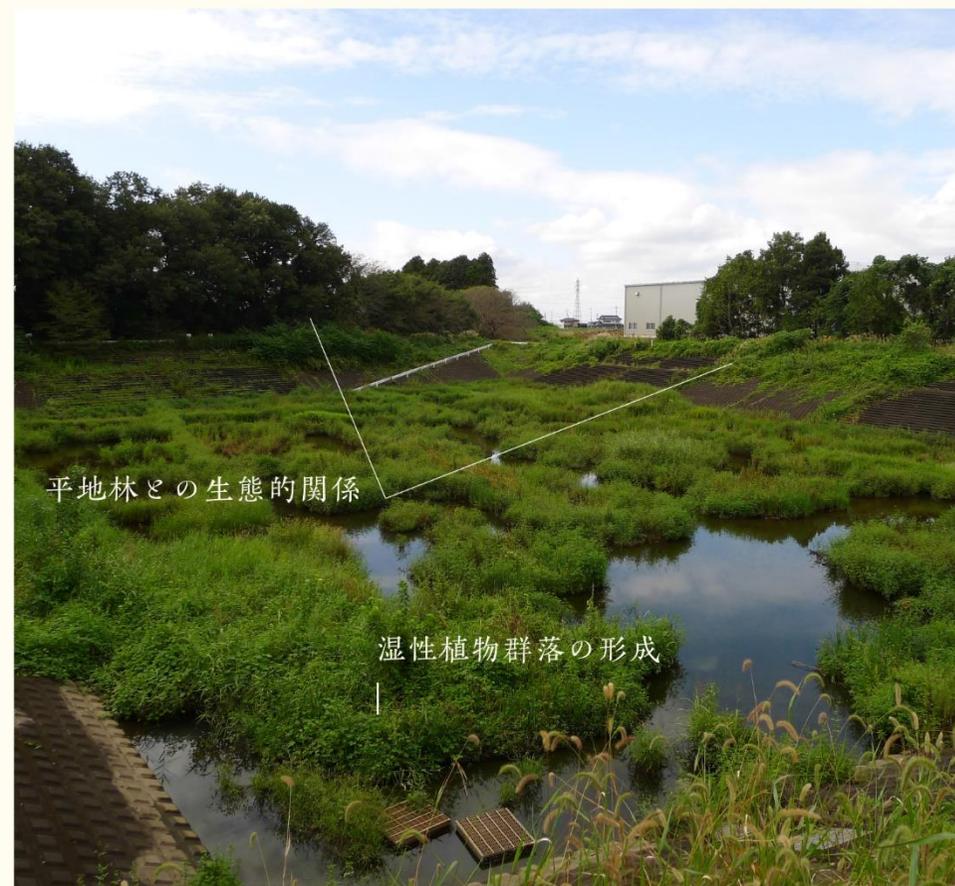
屋敷林群と河畔林。延島新田、絹地区

連続、不連続や所有者の別を問わず、樹林を軸に  
公園緑地の系統化が行えれば、防災や防疫にも。



須賀神社参道。宮本町、小山中央地区。2021/12/24

公園緑地系統には、緑化による延焼防止にも期待して緑路を増やし、組み込めれば望ましい。



農業用排水路排水槽または分水柵。小宅、豊田地区。2021/10/06 小山東部産業団地調整池。梁、絹地区。2021/09/16

従前の「グレイインフラ」が整備された中に、  
地域の生物が生き残る例も見られます。

これらの種により適した生息環境を確保する努力が、生物多様性保全、  
ひいては生態系から得られる便益の保持のために求められる。

# Chapter 6

## ● 今後の方向性(案)

## ■強み、課題、方向性について

### 強み

市民と行政の協働のまちづくり  
 地区まちづくり団体による地域  
 特性を活かすまちづくり活動  
 人口減少がわずか  
 鉄道の利便性の高さ  
 都心までの距離の近さ  
 高速ICまでの距離の近さ  
 北関東で有数の工業都市  
 都市と田園が調和  
 都市計画道路の高い整備率  
 市街化区域内の都市公園の  
 高いアクセス性  
 優れた自然環境（渡良瀬遊水地等）  
 小山駅周辺の再開発が進展中  
 多くの土地区画整理事業が  
 既に実施済  
 地産地消・食育を推進  
 農村の多面的機能維持・発揮  
 活動力バー率が高い  
 市街化区域の多くが  
 浸水想定区域外で安全  
 財政状況の高い健全性 等々

### 課題

多様化・複雑化する市民ニーズへの対応  
 市民意見・意向の市政への反映  
 人口減少の始まり  
 日常生活サービスの利便性の低さ  
 徒歩による生活利便性の低さ  
 バスの利便性の低さ  
 市街地の交通渋滞  
 都市計画道路の長期未着手路線の存在  
 市街化調整区域内の開発許可件数の多さ  
 市街地の空家・未利用地の増加  
 市街化区域の一部が洪水浸水想定区域内  
 市民一人当たり公園面積の低さ  
 農地面積の減少  
 農家人口の減少による農村活力の低下  
 農地や平地林の保全の必要性  
 水と緑の保全・ネットワーク化の必要性  
 まちづくりを通じてのSDGsへの対応

### 方向性

市民参画・協働

グリーンインフラの推進

まちのコンパクト・  
プラス・ネットワーク化

公園緑地機能の  
保全・強化および  
農村環境の維持・保全

風土性調査結果の活用



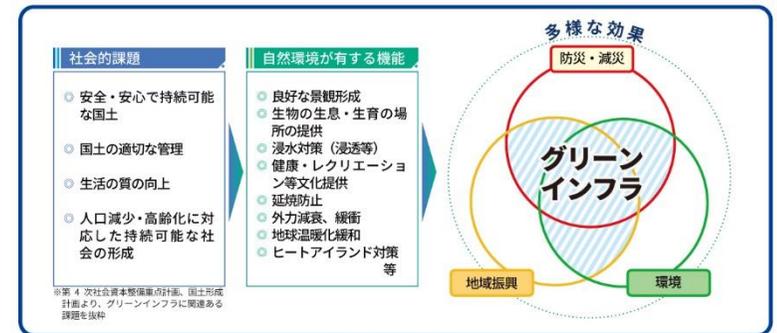
## ②グリーンインフラ※の推進

- 地球規模の気候危機やこれに伴う災害の激甚化から食料・水資源危機への懸念までに対応し、地域単位で自然環境の保全に取り組む必要があることが、国際社会で確認し合われている。このことから、地域の自然環境（地形・地質、植生等）が持つ防災・減災その他のさまざまな機能を生かす、「グリーンインフラ」の考え方を小山市の風土性に合わせて応用することを図る
- 具体的には、自然環境が有するさまざまな機能（生態、保健・衛生、熱環境調整、低炭素化、雨水の地下浸透促進による流出抑制、風水害への防備、火災時の延焼防止等）を有効活用して、防災・減災を図る
- グリーンインフラの推進も含んだ自然環境の保全を基礎として、持続可能なまちの風土形成を図る

※「グリーンインフラ」の定義（国土交通省）：「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。



(出典：横浜市)



● 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

● 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

(出典：国土交通省)

### ③まちのコンパクト・プラス・ネットワーク化

- 人口減少社会においても、人の身の丈に合い人間的でもある、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進め、持続可能な都市を目指す
- 市街地（主に市街化区域）は、まちなかを始めとして、ウォーカブルシティの実現と歩行者・自転車道の回遊性ネットワークを形成していく
- 郊外部（主に市街化調整区域）は、農業の担い手確保や事業継承を支える住環境の整備および都市の生活サービス機能へのアクセス充実を図る
- エネルギー消費をできるだけ抑えた、まちの中心拠点と地域の拠点をつなぐ公共交通ネットワークの利便性向上を目指す
- 公共インフラは、既存ストックを有効活用し、必要に応じて新設整備を図る
- 特に、ウォーカブルシティ実現は、市の努力と共に沿道で暮らし働く人びとの参画・協働もあって可能となるため、アイデアを出し合い実践し合うための話し合いの機会を設ける



まちなかにはいろいろなお店があって出かけるのが楽しい。休日はお年寄りから家族連れまでたくさんの人でにぎわっている。

（小山市立地適正化計画より引用）



バスを使えば郵便局や最寄りの駅まで行きやすい。最近まで、バス利用者も増えてきたようで、減便の心配はなさそうだ。

（小山市立地適正化計画より引用）

## ④公園緑地機能の保全・強化および農村環境の維持・保全

- 公園緑地は、②にある「グリーンインフラの推進」「自然環境の保全」を基本として、低炭素化や生物多様性に配慮したまちづくりを目指すために、保全と整備を図る
- 市民のニーズに即して既存公園の再整備、適切な再配置を目指す
- 風土性調査の結果を踏まえて、市内の緑地、水辺の現況を把握、評価し、適切な緑の保全と緑化の推進を目指す
- 農業・農村は食料生産のほか、水源の涵養や自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能を有しており、農地を保全すべき生産基盤・緑として位置づけ、豊かな田園環境の保全を推進する
- 農地の保全を推進する一方で、都市と農村の交流や農作物の地産地消の推進を図るための規制緩和等（市民農園、農家レストラン、公共施設の利活用など）を検討する
- ③「ウォークアブルシティ」「歩行者・自転車道の回遊性ネットワーク」は、②「グリーンインフラの推進」「自然環境の保全」を基本に、道路の緑量をできるだけ増やし、可能な場所では公園緑地や民有の緑地、農地、河川、水路・ため池などと結びつけた上に、実現していく
- 上記の市と市民の協力によって形成される公園緑地のネットワーク（公園緑地系統、公園緑地帯、または生態回廊）を、小山市の都市部と田園部を生態的につなぐ、「田園環境都市 小山」の緑と水の骨格として位置づけ、市民に対して情報発信し、市民と共有し、保全・整備に努めていく



思川アプローチ広場から望む  
「思川緑地」



渡良瀬遊水地第2調節池  
に定住するコウノトリ  
「ひかる」